

---

平成 23 年度 平塚市美術館年報

ANNUAL REPORT of the Hiratsuka Museum of Art 2011

April 2011 - March 2012

---

## 平成 23 年度 平塚市美術館年報 目次

<b>I 作品・資料</b> .....	3
(1) 収集	
(2) 展示	
(3) 貸与	
<b>II 展覧会</b> .....	6
1 企画展 開館 20 周年記念展 画家たちの 二十歳の原点	6
2 特集展 北大路魯山人展 世田谷美術館 塩田コレクション	11
3 企画展 開館 20 周年記念展 花ひらくエコール・ド・パリの画家たち パスキン、そしてシャガール、フジタ、ローランサン	15
4 特集展 アーティスト in 湘南 I 工藤甲人・伊藤彬・中野嘉之・山本直彰・斉藤典彦	20
5 特集展 アーティスト in 湘南 II 高良眞木・内田めぐり・石井礼子	23
6 企画展 開館20周年記念展 伊東深水一時代の目撃者	27
7 特集展 アーティスト in 湘南 III 鳥海青児 新出作品紹介	31
<b>III 教育普及</b> .....	34
<b>IV その他の事業</b> .....	38
(1) 事業	
(2) 団体向け研修・体験プログラム	
(3) 職場体験受け入れ	
(4) 定例会議	
(5) 平塚市美術館湘南フレンズ倶楽部の発足	
(6) その他	
<b>V 施設利用者等の統計</b> .....	43
(1) 展覧会	
(2) 貸出施設	
<b>VI 施設の管理</b> .....	45
(1) 防災訓練	
(2) 蓄熱槽補修工事	
(3) 施設の貸出について	
<b>VII 沿革</b> .....	47

# I 作品・資料

## (1) 収 集

### 購入作品

作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	材質	点数
樋口健彦	untitled	2009 年	26.5×72.0×12.5	墨・陶	1
堀文子	早苗の頃	1983 年	138.0×220.0	彩色・紙	1
保田春彦	白い風景 I	2004 年	32.5×19.0×12.5	アクリル・木	1
保田春彦	白い風景 II	2003 年	63.5×9.0×11.5	アクリル・木	1
—	—	—	—	—	計 4 点

※平成 22 年度選定評価委員会において作品の購入を決定し、23 年度に購入しました。

### 寄贈作品

作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	材質	点数
伊東深水	母子(仮)	大正中期	135.8×31.6	彩色・紙	1
井上長三郎	群像	不詳	130.5×162.0	油彩・キャンバス	1
大森運夫	荒寥の季節	1999 年	189.0×303.0	彩色・紙	1
加藤芳信	雪虫	1980 年	53.7×37.1	インク・紙	1
加藤芳信	ぼんしょう	1999 年	145.5×97.9	油彩、アクリル・キャンバス	1
加藤芳信	大地	1999 年	80.2×55.3	アクリル・紙	1
加藤芳信	光の輪廻	2009 年	130.2×194.4	アクリル・紙	1
鳴剛	THE RESTLESS PACIFIC C	1992 年	181.0×227.3	油彩・キャンバス	1
清水多嘉示	女の座像	1967 年	21.0×37.0×h50.5	ブロンズ	1
滝波重人	UNTITLED	1990 年	170.0×130.3	テンペラ、油彩・キャンバス	1
滝波重人	UNTITLED 97-P-1	1997 年	227.0×110.0	テンペラ、油彩・キャンバス	1
滝波重人	UNTITLED 97-P-2	1997 年	227.0×110.0	テンペラ、油彩・キャンバス	1
滝波重人	汽水域 04-P-2	2004 年	227.0×110.0	テンペラ、油彩・キャンバス	1
滝波重人	イーゼンハイム 92-D-14	1992 年	65.7×50.2	水彩、色鉛筆、パステル、テンペラ・紙	1
滝波重人	UNTITLED 95-D-19	1995 年	57.0×76.0	水彩、色鉛筆、パステル、テンペラ・紙	1
滝波重人	UNTITLED 95-D-20	1995 年	57.0×76.0	水彩、色鉛筆、パステル、テンペラ・紙	1
滝波重人	汽水域 04-D-6	2004 年	65.0×50.0	水彩、パステル、テンペラ・紙	1
滝波重人	汽水域 04-D-8	2004 年	65.0×50.0	水彩、パステル、テンペラ・紙	1
樋口健彦	黒玉	2006 年	55.0×57.0×57.0	墨・陶	1
樋口健彦	黒玉	2006 年	55.0×57.0×57.0	墨・陶	1
樋口健彦	untitled	2009 年	10.8×82.0×38.0	墨・陶	1
樋口健彦	Real Number 2010-h4	2010 年	30.0×65.5×31.0	墨・陶	1
樋口健彦	玉	2010 年	56.0×54.0×54.0	墨・陶	1
兵藤和男	海岸通り	1951 年頃	45.0×53.0	油彩・キャンバス	1
兵藤和男	横浜山手風景	1962 年	52.1×64.1	油彩・キャンバス	1
兵藤和男	鶴沼風景	1965 年	39.8×51.8	油彩・キャンバス	1
本荘尅	ジンジアの花	1959 年	60.8×40.8	油彩・キャンバス	1
—	—	—	—	—	計 27 点

寄託作品

作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	材質	点数
内田あぐり	女たち	1978年	180.0×180.0	彩色・紙	1
内田あぐり	鳥瞰図-I	1979年	162.0×131.0	彩色・紙	1
内田あぐり	鳥瞰図-II	1979年	162.0×131.0	彩色・紙	1
内田あぐり	礼讃図	1980年	165.0×215.0	彩色・紙	1
内田あぐり	わたしの前にいる、目を閉じている	2007年	240.0×240.0	彩色・紙	1
大森運夫	回廊の午後	2001年	174.0×236.0	彩色・紙	1
大森運夫	無名の柱頭	2004年	227.3×181.8	彩色・紙	1
大森運夫	聖女像	2002年	194.0×112.0	彩色・紙	1
大森運夫	閑日	2002年	162.0×131.0	彩色・紙	1
大森運夫	エジプトへの逃避	2004年	131.0×162.0	彩色・紙	1
大森運夫	三博士の礼拝	2009年	185.0×231.5	彩色・紙	1
大森運夫	キリスト伝	1996年	91.5×186.5	彩色・紙	1
大森運夫	狩獵	2003年	117.0×117.0	彩色・紙	1
大森運夫	めぐるおもい	1988年頃	90.9×90.9	彩色・紙	1
大森運夫	禁断の木の実(オータン美術館にて)	2009年	67.9×117.0	彩色・紙	1
黒崎俊雄	無題	2004年	211.0×470.5	アクリル・紙	1
島田章三	望郷	1966年	162.0×130.3	油彩・画布	1
清水敦次郎	鬮籠と老人	1919年	90.5×65.0	油彩・キャンバス	1
速水御舟	夏草	1925年	26.2×23.6	彩色・絹	1
速水御舟	紅海	1930年	20.8×29.5	インク・紙	1
速水御舟	ベスピオ火山	1930年	20.8×29.5	インク・紙	1
速水御舟	アシジ遠望	1930年	20.8×29.5	インク・紙	1
速水御舟	アシジにて	1930年	20.8×29.5	鉛筆・紙	1
速水御舟	アシジ 聖フランチェスコ大修道院	1930年	20.8×29.5	インク・紙	1
速水御舟	フォロ・ロマーノ近きバジリカにて	1930年	20.8×29.5	インク・紙	1
速水御舟	イタリアにて	1930年	20.8×29.5	インク・紙	1
速水御舟	コモ、ナッタ街にて	1930年	20.8×29.5	インク・紙	1
速水御舟	コロポ港、雨	1930年	20.8×29.5	インク・紙	1
速水御舟	香港落暉	1930年	20.8×29.5	インク・紙	1
速水御舟	船上にて	1930年	22.0×28.0	鉛筆・紙	1
本荘赳	薔薇	1991年	52.0×32.0	油彩・キャンバス	1
山本直彰	IKAROS-2011	2011年	333.3×248.5	彩色・紙	1
—	—	—	—	—	計 32 点

## (2)展 示

当館展覧会において下表のとおり作品を展示しました。

NO	種別	展覧会名	総出品点数	うち所蔵・寄託	うち借用
1	企画展	画家たちの 二十歳の原点	118	2	116
2	特集展	北大路魯山人 世田谷美術館 塩田コレクション	112	0	112
3	企画展	花ひらくエコール・ド・パリの画家たち	158	0	158
4	特集展	アーティスト in 湘南 I 工藤甲人・伊藤彬・中野嘉之・山本直彰・斉藤典彦	43	42	1
5	特集展	アーティスト in 湘南 II 高良眞木・内田あぐり・石井礼子	106	46	60
6	企画展	伊東深水ー時代の目撃者ー	100	0	100
7	特集展	アーティスト in 湘南 III 鳥海青児 新出作品紹介	77	77	0
計	—	—	714 点	167 点	547 点

## (3)貸 与

開催展覧会の内容や意義、開催場所の設備・環境、作品の状態や当館での利用予定などを考慮し、下表のとおり作品を貸し出しました。

NO	貸出先	展覧会名・会期	点数	作家・作品名
1	横須賀美術館	「親子で楽しむ美術館 集まれ！おもしろどうぶつ展」7/16ー8/28	2	海老原喜之助「曲馬」、 鳥海青児「ピカドール」
2	高岡市美術館、 碧南市藤井達吉現代美術館、 広島県立美術館	「日本近代の木彫展」 高岡市美術館：8/10ー9/19 碧南市藤井達吉現代美術館：10/4ー 11/13 広島県立美術館：11/29ー1/5	5	横田七郎「干物(めざし)」、「静物(干物)」、 「静物(カタクチイワシ)」、「静物(豆)」、 「静物(骸)」
3	愛知県美術館、 横須賀美術館	「島田章三展」 愛知県美術館：9/16ー10/30 横須賀美術館：11/19ー12/25	3	島田章三「はこぶね」(寄託)、「エウロ ーペ」、「室内景」
4	大阪市立美術館	「生誕 120 周年記念 岸田劉生展」 9/17ー11/23	2	岸田劉生「F 氏像」、「石垣ある道(鶴 沼風景)」
5	明治神宮文化館	「和紙に描かれた日本の美ー神宮紙と 画紙の系譜展」10/1ー11/27	2	今村紫紅「水汲む女」、「牛飼う男」
6	神戸市立小磯記念美術館、 川越市立美術館	「昭和モダン 藤島武二と新制作初期会 員たち展」 神戸市立小磯記念美術館：10/15ー1/9 川越市立美術館：1/28ー3/20	1	荻須高德「巴里郊外」(寄託)
7	東京国立近代美術館	「めぐ絵画ー日本のヌード 1880-1945 展」11/15ー1/15	2	萬鉄五郎「雲と裸婦」、「宙腰の人」
8	渋谷区立松濤美術館	「開館 30 周年記念 渋谷ユートピア 1900-1945 展」11/17ー2/15	1	椿貞雄「菊子座像」
9	千葉県立美術館	「関主税展」11/26ー1/15	1	関主税「鳥」(寄託)
計	—	—	19 点	—

## II 展覧会

### ■ 1 開館 20 周年記念展 画家たちの 二十歳の原点

種 別	企画展
会 期	4月16日(土)～6月12日(日)
主 催	平塚市美術館、読売新聞、美術館連絡協議会
協 賛	ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網
開館時間	9:30-17:00(入場は-16:30)
休館日	月曜日
観覧料	一般800円、高大生500円
開催日数	50日
入場者数	16,869人
担 当	土方明司(当館館長代理)



図録兼画集(一般書籍扱い)



黒田清輝《祈祷》1889年



展示風景

#### ●内容

人生においてもっとも多感でナイーブな十代の最終章、二十歳という象徴的な時期は、多くの芸術家にとって表現の原点であり、出発点にも位置づけられます。この時期、未熟と成熟とが葛藤しつつ、世界との関係の中で客観的な自己の形を作り始めるのです。青木繁、村山槐多や関根正二、佐伯祐三、三岸好太郎、現代では難波田史男、石田徹也のような典型的な夭折の画家はもとより、長い活動に生きた芸術家たちもまた、この時期の作品に創作の核となる初々しくも痛切な感性のほとぼしりを見ることができます。

本展覧会では油彩画(一部創作版画)に焦点をしばり、明治、大正、昭和そして現代までの画家たちの二十歳前後の作品を集め、その創作の原点を探りました。そこにはそれぞれの時代における精神と自我の表れの違いがみられました。と同時に、時代を超え共通する感性の発露もみられました。また、各時代の青春期の作品を一堂にならべることにより、別個に語られ勝ちな近代と現代の美術を同一の地平で考える機会ともなりました。さらに、世代の異なる画家たちが青春期に描いた作品群は、その真摯でひたむきな態度によって、現代の若い世代への力強いメッセージとなりました。

各時代の画家たちが苦闘し悩みつつも世に残した、清冽な作品の数々をご覧ください。

## ●関連事業

### ○講演会 1

日時 4月30日(土) 14:00~15:30  
講演タイトル 会田誠 二十歳の原点をかたる  
講師 会田誠 氏(現代アーティスト)  
場所 ミュージアムホール  
参加者数 117人

### ○対談

日時 5月15日(日) 14:00~15:30  
講演タイトル 画家たちの 二十歳の原点  
講師 窪島誠一郎 氏(信濃デッサン館・無言館館主) 聞き手:草薙奈津子(当館館長)  
場所 ミュージアムホール  
参加者数 191人

### ○担当学芸員によるギャラリートーク

日時 5月1日(日)、6月4日(土) 各回 14:00~15:00  
場所 展示室 I  
参加者数 計 110人

## ●展覧会図録 『画家たちの 二十歳の原点』

発行月 2011年4月  
価格 3000円  
体裁 21.0cm×14.7cm、293頁  
企画・監修 土方明司(当館館長代理)  
テキスト 窪島誠一郎 「金盃を叩くような一槐多と私の「二十歳」」  
野見山暁治 「ぼくが二十歳のとき」  
横尾忠則 「あの頃ぼくはデザイナーの卵だった」  
森村泰昌 「二十歳の原点あるいは、表現の純粹衝動」  
大竹伸朗 「路地裏の厚紙男」  
O J U N 「二十歳前の自画像について」  
会田 誠 「二十歳の頃の糞作品」  
山口 晃 「免罪符みた様なものが・・・」  
土方明司 「大正期の美術 そして村山槐多・関根正二」  
木本文平 「青春の自画像」  
江尻 潔 「明日の考察」  
資料等 作家略歴、年表、掲載作品目録  
発行 株式会社 求龍堂

●出品リスト

NO	作家名	作品名	制作年	技法材質	所蔵先	平塚	下関	碧南	足利
1	黒田清輝	構図(羊飼二天女)	1887年	油彩・キャンバス	東京国立博物館		○	○	
2	黒田清輝	自画像(トルコ帽)	1889年	油彩・キャンバス	東京国立博物館	○			○
3	黒田清輝	祈祷	1889年	油彩・キャンバス	東京国立博物館	○			○
4	黒田清輝	友人ジョンズ肖像	1889年	油彩・キャンバス	東京国立博物館		○	○	
5	黒田清輝	羊を抱く少女	1889年	油彩・キャンバス	東京国立博物館	○			○
6	黒田清輝	画室内	1889年	油彩・キャンバス	佐賀県立美術館	○	○	○	○
7	黒田清輝	虹	1889年	油彩・キャンバス	東京国立博物館		○	○	
8	熊谷守一	腰かけた女	1903年	油彩・キャンバス	岐阜県美術館	○	○	○	○
9	熊谷守一	横向裸婦	1904年	油彩・板	天童市美術館(村山コレクション)	○	○	○	△
10	青木繁	豎琴をもてる女	1904年	水彩・紙	東御市梅野記念絵画館寄託	○	○	○	
11	青木繁	自画像	1905年	油彩・厚紙	三重県立美術館	●			○
12	青木繁	春鳥集下絵	1905年	水彩・紙	東御市梅野記念絵画館寄託	○	○	○	
13	坂本繁二郎	秋の朝日	1899年	油彩・紙	京都国立近代美術館			○	○
14	坂本繁二郎	町裏	1904年	油彩・キャンバス	石橋財団石橋美術館寄託	○	○		
15	坂本繁二郎	早春	1905年	油彩・キャンバス	個人蔵			○	○
16	萬鐵五郎	郊外風景(菜の花)	1907年頃	油彩・キャンバス	萬鉄五郎記念美術館	●	○	○	○
17	萬鐵五郎	雪の風景	1908年	油彩・キャンバス	岩手県立美術館	●	○	○	○
18	萬鐵五郎	裸体習作	1908年	木炭・紙	岩手県立美術館		○		
19	萬鐵五郎	裸体習作	1908年	木炭・紙	岩手県立美術館	●			
20	萬鐵五郎	裸体習作	1908年	木炭・紙	岩手県立美術館				○
21	萬鐵五郎	裸体習作	1908年	木炭・紙	岩手県立美術館			○	
22	萬鐵五郎	盛岡住吉神社風景	1909年頃	油彩・キャンバス	萬鉄五郎記念美術館	●	○	○	○
23	中村彝	自画像	1909年頃	油彩・キャンバス ボード	茨城県近代美術館	○	○	○	○
24	中村彝	帽子を被る自画像	1909年頃	油彩・キャンバス	宮城県美術館(洲之内コレクション)	●	○	○	○
25	安井曾太郎	栗田口風景	1905年	油彩・キャンバス	京都市美術館	○	○	○	
26	安井曾太郎	自画像	1906年	油彩・キャンバス	京都市美術館	○	○	○	○
27	安井曾太郎	田舎の寺	1909年	油彩・キャンバス	京都国立近代美術館	○	○	○	○
28	梅原龍三郎	少女アニー	1908年	油彩・キャンバス	豊田市美術館			○	○
29	梅原龍三郎	若き羅馬人	1909年	油彩・キャンバス	愛知県美術館	○	○	○	○
30	梅原龍三郎	はふ女	1909年	油彩・キャンバス	下関市立美術館	○	○	○	○
31	高島野十郎	傷を負った自画像	1914年頃	油彩・キャンバス	福岡県立美術館	○		△	○
32	岸田劉生	日比谷の木立	1912年頃	油彩・板	下関市立美術館	○	○	○	○
33	岸田劉生	自画像	1913年	油彩・キャンバス	下関市立美術館	○	○	○	○
34	岸田劉生	Aの肖像	1913年	油彩・キャンバス	平塚市美術館	○	○	○	○
35	恩地孝四郎	海の女	1912年	油彩・キャンバス	和歌山県立近代美術館	○	○	○	○
36	恩地孝四郎	裸形のくろしみⅢ	1914年	木版・紙	小野忠重版画館			○	
37	恩地孝四郎	そらにかかるもの	1914年	木版・紙	小野忠重版画館				○
38	恩地孝四郎	あかるい時	1915年	木版・紙	小野忠重版画館	○			
39	藤森静雄	眠る少女	1910年代前半	油彩・キャンバス	和歌山県立近代美術館	○	○	○	○
40	藤森静雄	死によりて結ばれる心	1914年	木版・紙	小野忠重版画館			○	
41	藤森静雄	内省	1915年	木版・紙	小野忠重版画館				○
42	藤森静雄	映心	1915年	木版・紙	小野忠重版画館	○		○	
43	田中恭吉	男の肖像	1910-13年頃	油彩・板	和歌山県立近代美術館	○	○	○	○
44	田中恭吉	去勢者と緋罌粟	1914年	木版・紙	小野忠重版画館				○
45	田中恭吉	冬虫夏草	1914年	木版・紙	小野忠重版画館	○			
46	田中恭吉	あをそら	1915年	木版・紙	小野忠重版画館				○
47	牧島如鳩	天使図	1910年	油彩・キャンバス	足利市立美術館	○	○	○	○
48	木村荘八	自画像	1913年	油彩・キャンバス	下関市立美術館	○	○	○	○
49	木村荘八	壺を持つ女	1915年	油彩・キャンバス	愛知県美術館	○	○	○	○
50	中川一政	監獄の横	1914年	油彩・キャンバス	個人蔵	○	○	○	○
51	中川一政	椅子の少女	1916年	油彩・キャンバス	平塚市美術館	○	○	○	○
52	河野通勢	裾花川の河柳	1915年	油彩・キャンバス	長野県信濃美術館	○	○	○	○
53	河野通勢	三人の乞食	1916年	油彩・キャンバス	長野県信濃美術館	○	○	○	○
54	河野通勢	自画像	1918年	油彩・板	個人蔵	○	○	○	○

55	林倭衛	サンジカリスト(浅枝次朗)	1916年	油彩・キャンバス	個人蔵	○	○	○	○
56	村山槐多	裸婦	1914-15年	油彩・キャンバス	町立久万美術館			○	○
57	村山槐多	尿する裸僧	1915年	油彩・キャンバス	信濃デッサン館	○			○
58	村山槐多	自画像	1915年	木炭・紙	宮城県美術館	●	△	△	△
59	村山槐多	自画像	1916年	油彩・キャンバス	三重県立美術館	○	○		
60	村山槐多	のらくら者	1916年	木炭・コンテ・紙	横須賀美術館	△	△	△	△
61	村山槐多	櫻	1917年	鉛筆・木炭・紙	東京都現代美術館	△	△	△	△
62	村山槐多	湖水と女	1918年	油彩・キャンバス	ポーラ美術館	○	○	△	
63	佐伯祐三	自画像	1917年頃	油彩・キャンバス	愛知県美術館	○	○	○	○
64	佐伯祐三	自画像	1917年	油彩・キャンバス	日動美術財団			○	○
65	佐伯祐三	自画像	1917年	油彩・キャンバス	三重県立美術館	○	○		
66	関根正二	死を思う日	1915年	油彩・キャンバス	福島県立美術館寄託	●	○	○	○
67	関根正二	自画像	1916年	インク・紙	信濃デッサン館		○	○	
68	関根正二	姉弟	1918年	油彩・キャンバス	福島県立美術館	●	○		
69	関根正二	神の祈り	1918年	油彩・キャンバス	福島県立美術館			○	○
70	関根正二	少年	1918年	油彩・キャンバス	神奈川県立近代美術館寄託			○	○
71	関根正二	小供	1918年	油彩・キャンバス	個人蔵	○	○	○	○
72	関根正二	自画像	1918年	油彩・キャンバス	福島県立美術館	●	○	○	○
73	関根正二	三星	1919年	油彩・キャンバス	東京国立近代美術館	○	○		
74	柳瀬正夢	自画像	1920年頃	油彩・キャンバス	愛媛県美術館	○	○	○	○
75	柳瀬正夢	運河(煙突のある風景)	1920年	油彩・板	愛媛県美術館	○	○	○	○
76	柳瀬正夢	川と橋	1921年頃	油彩・板	愛媛県美術館	○	○	○	○
77	尾形龜之助	化粧	1922年	油彩・キャンバス	個人蔵	●	○	○	○
78	猪熊弦一郎	少年	1922年	油彩・キャンバス	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	○	○	○	○
79	猪熊弦一郎	自画像	1925年	油彩・キャンバス	丸亀市猪熊弦一郎現代美術館	○	○	○	○
80	三岸好太郎	赤い肩かけの婦人像	1924年	油彩・キャンバス	北海道立三岸好太郎美術館	○	○	○	○
81	三岸好太郎	兄及び彼の長女	1924年	油彩・キャンバス	北海道立三岸好太郎美術館	○	○	○	○
82	海老原喜之助	二人の女	1927年	油彩・キャンバス	東京国立近代美術館			○	○
83	海老原喜之助	窓(カンヌ)	1927年	油彩・キャンバス	北九州市立美術館	○	○	○	○
84	長谷川瀧二郎	ハリストス正教会への道	1923年	油彩・キャンバス	おかざき世界子ども美術博物館	○	○	○	○
85	長谷川瀧二郎	函館風景	1923年	油彩・キャンバス	宮城県美術館	●	○	○	○
86	吉原治良	黒い帽子の自画像	1928年頃	油彩・キャンバス	大阪市立近代美術館建設準備室	○	○		
87	吉原治良	鮭のある風景	1928年	油彩・キャンバス	大阪市立近代美術館建設準備室			○	○
88	三岸節子	自画像	1924年	油彩・キャンバス	高輪画廊	○	○	○	○
89	三岸節子	自画像	1925年	油彩・キャンバス	一宮市三岸節子記念美術館	○	○		
90	鬘光	コミサ(洋傘による少女)	1929年	油彩・キャンバス	広島県立美術館	○	○	○	
91	笈忠治	男の顔	1930年	インク・紙	個人蔵	○	○	○	○
92	桜井浜江	途上	1930年代初め	油彩・キャンバス	個人蔵	●	○	○	○
93	佐藤哲三	赤帽平山氏	1929-30年	油彩・キャンバス	宮城県美術館(洲之内コレクション)	●	○	○	○
94	佐藤哲三	赤い服の少女	1930-31年	油彩・キャンバス	個人蔵	○	○	○	○
95	藤牧義夫	御徒町駅	1932年	木版・紙	小野忠重版画館	○	○	○	○
96	藤牧義夫	朝	1932年	木版・紙	小野忠重版画館	○	○	○	○
97	松本竣介	少女	1930年	油彩・キャンバスボード	岩手県立美術館	●	○	○	○
98	松本竣介	赤い建物	1936年	油彩・板	岩手県立美術館	●	○	○	○
99	松本竣介	少年像	1936年	油彩・キャンバス	岩手県立美術館	●	○	○	○
100	オノサト・トシノブ	人と木と鳥	1933年	油彩・キャンバス	個人蔵	○	○	○	○
101	オノサト・トシノブ	長崎の船と倉庫	1934年	油彩・キャンバス	個人蔵	○	○	○	○
102	桂ゆき	帰り道	1934年	油彩・キャンバス	山口県立美術館寄託	○	○	○	○
103	桂ゆき	日なた	1935年	油彩・キャンバス	下関市立美術館	○	○	○	○
104	桂ゆき	手紙	1936年	油彩・キャンバス	下関市立美術館	○	○	○	○
105	加藤太郎	木の葉	1938年頃	木版・紙	郡山市立美術館寄託	●	○	○	○
106	加藤太郎	無題	1938年頃	木版・紙	郡山市立美術館寄託	●	○	○	○
107	野見山暁治	マドの肖像	1942年	油彩・キャンバス	練馬区立美術館寄託	○	○	○	○
108	鴨居玲	夜(自画像)	1947年	油彩・キャンバス	笠間日動美術館	○	○	○	○

109	草間彌生	無題	1950年代 初め	油彩・キャンバス	松本市美術館寄託 (作家蔵)	○	○	○	○
110	草間彌生	無題	1952年	墨・紙	栃木県立美術館			○	
111	草間彌生	無題	1952年	墨・紙	栃木県立美術館				○
112	草間彌生	Flower	1953年	水彩、墨、パステル・紙	栃木県立美術館	○			
113	草間彌生	洛陽	1953年	水彩、墨、パステル・紙	栃木県立美術館		○		
114	霧嘯	クレーンと人	1954年	油彩・板	横須賀美術館	○	○	○	○
115	霧嘯	太陽のにわとり	1955年	油彩・板	下関市立美術館	○	○	○	○
116	池田満寿夫	橋のある風景	1950年	油彩・キャンバス	池田満寿夫美術館	○	○	○	○
117	池田満寿夫	皿をなめる少女	1953年	油彩・キャンバス	池田満寿夫美術館	○	○	○	○
118	横尾忠則	岩と水	1954年	水彩・紙	西脇市岡之山美術館	○	○	○	○
119	横尾忠則	織物祭(西脇市)	1955年	オフセット・紙	国立国際美術館	○	○	○	○
120	神田日勝	自画像	1956年頃	油彩・キャンバス	神田日勝記念美術館	○	○	○	○
121	神田日勝	馬	1957年	油彩・板	神田日勝記念美術館	○	○	○	○
122	難波田史男	室内	1960年	油彩・キャンバス	世田谷美術館	○	○	○	○
123	難波田史男	自己とのたたかひの日々 H	1961年	水彩、インク・紙	世田谷美術館	△	△	△	△
124	難波田史男	自己とのたたかひの日々 L	1963年	水彩、インク・紙	世田谷美術館	△	△	△	△
125	高畑正	富国一景	1971年頃	染料、綿布	個人蔵	●	○	○	○
126	高畑正	ガス公害	1971年頃	染料、綿布	個人蔵	●	○	○	○
127	森村泰昌	漁村風景(波切俯瞰)1	1971年頃	油彩・板	作家蔵	○	○	○	○
128	森村泰昌	漁村風景(波切俯瞰)2	1971年頃	油彩・板	作家蔵	○	○	○	○
129	大竹伸朗	白壁前のレコードジャケットI	1975年	油彩・キャンバス	作家蔵	○	○	○	○
130	大竹伸朗	白壁前のレコードジャケットII	1975年	油彩・キャンバス	作家蔵	○	○	○	○
131	O JUN	自画像	1975年	油彩・キャンバス	作家蔵	○	○	○	○
132	O JUN	自画像	1976年	油彩・キャンバス	作家蔵	○	○	○	○
133	野村昭嘉	(題不詳)	1986年	アクリル・板	佐賀県立美術館	○	○	○	○
134	野村昭嘉	雲の製造 I	1988年	アクリル・板	佐賀県立美術館	○	○	○	○
135	野村昭嘉	雲の製造 II	1988年	アクリル・板	佐賀県立美術館	○	○	○	○
136	会田誠	無題(通称:まんが屏風)	1986年	パネル、漫画雑誌の切り抜き、油絵具、写真、その他(四曲一隻屏風)	作家蔵	○	○	○	○
137	山口晃	洞穴の頼朝	1990年	油彩・キャンバス	作家蔵	○	○	○	○
138	山口晃	落馬	1991年	油彩・キャンバス	作家蔵	○	○	○	○
139	石田徹也	ピアガーデン発	1995年	アクリル・紙	静岡県立美術館	○	○	○	○
140	石田徹也	燃料補給のような食事	1996年	アクリル・板	静岡県立美術館	○	○	○	○
141	石田徹也	飛べなくなった人	1996年	アクリル・板	静岡県立美術館	○	○	○	○

※開催4会場のうち出品される会場を○(全会期)もしくは△(半会期)で記しました。出品会場名は平塚(平塚市美術館)、下関(下関市立美術館)、碧南(碧南市藤井達吉現代美術館)、足利(足利市立美術館)と略して表記しました。

※平塚会場で半会期の作品の展示期間は、前期(4/16-5/13):19-VI、46-II 後期(5/14-6/12):19-V、46-III

※東日本大震災による交通事情の悪化により、出品予定作品の一部を借用できませんでした。展覧会当初は、該当作品を原寸の写真パネルで展示しリスト上では●で記しました。

## ■ 2 北大路魯山人展 世田谷美術館 塩田コレクション

種別	特集展
会期	4月23日(土)～6月19日(日)
主催	平塚市美術館
協賛	神奈川中央交通株式会社
開館時間	9:30-17:00(入場は-16:30)
休館日	月曜日
観覧料	一般200円、高大生100円
開催日数	50日
入場者数	17,918人
担当	小池光理(当館学芸員)



チラシ



北大路魯山人《雲錦大鉢》1930年



展示風景

### ●内容

食に対するたぐいまれな美意識をもち、料理を盛りつける器までを自ら手がけた北大路魯山人(きたおおじろさんじん 1883-1959)の陶芸作品をご紹介します。

魯山人は京都に生まれ、16歳から書・篆刻で名を知られました。多くの豪商とつきあい、美意識をみがいた魯山人は、美術骨董店「大雅堂美術店」を経営し、1921年38歳の時、その2階に高級料理店「美食倶楽部」を開きます。「美食倶楽部」はやがて評判の高級料亭「星岡茶寮(ほしがおかさりょう)」へと発展しました。

自作の器で料理をサービスしたいと考えた魯山人が、本格的な作陶活動に入るのは40歳を越えてからのことです。書で鍛えた確かな筆さばきによる自在な絵付け、古陶磁の研究をもとにした織部焼や志野焼の新たな創造など、独自のセンスが光る陶芸作品の数々が、世に送り出されました。

現在では、グルメ文化の先駆者、美的空間の総合プロデューサーとして高い評価を得ている魯山人ですが、貧しく苦労した子供時代、茶寮の奔放経営による解雇処分、息子の死など、その人生は苦難と喪失の連続でした。魯山人の強烈な個性のうちには、美に拠って生き抜いた芸術家の魂があり、それ故その作品は今なお、多くの人々を魅了し続けています。

本展は、公立美術館としては最大のコレクションを収蔵する世田谷美術館の協力を得て、魯山人の支援者であった利根ボーリング創業者塩田岩治夫人サキ様の寄贈コレクションから、陶磁器を中心に112点を展覧しました。

## ●関連事業

### ○講演会

日時 5月7日(土) 14:00～15:30  
 講演タイトル 北大路魯山人の魅力  
 講師 清水真砂 氏(世田谷美術館学芸部長)  
 場所 ミュージアムホール  
 参加者数 150人

### ○当館学芸員によるギャラリートーク

日時 5月3日(火祝)、5月28日(土) 各回 14:00～14:30  
 場所 展示室Ⅱ  
 参加者数 計96人

### ○ワークショップ

講座名 陶の造形～いそどりの器～  
 日時 5月21日(土)、6月4日(土)、6月11日(土) 全3回連続講座 各回 13:30～16:00  
 講師 塩田亜希子 氏(しおだあきこ 陶芸家)  
 場所 アトリエ  
 参加者数 17人

## ●出品リスト

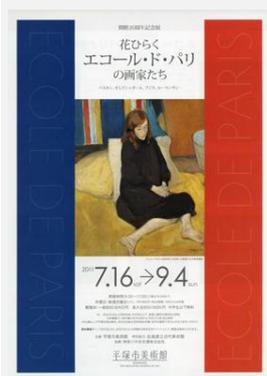
NO	作品名	制作年	サイズ(高さ×幅/径×奥行)
1	雲錦大鉢	昭和15年	22.5×46.8×33.6
2	椿文鉢	昭和10年代	10.9×22.0
3	椿文鉢	昭和10年代	10.8×23.4
4	雲錦鉢(小)	昭和10年代	11.5×22.0
5	染付葡萄文鉢	昭和初期	12.3×21.0
6	色絵染付鮑形鉢	昭和10年代	6.3×20.0×29.0
7	色絵竹に牡丹筒向付	昭和20年以降	7.0×7.6
8	呉須辰砂葡萄文大壺	昭和10年代	40.4×32.0
9	額「天上天下唯我独尊」	昭和15年	23.7×71.0
10	雲錦鉢(中)	昭和10年代	13.1×27.0
11	色絵魚文皿	昭和初期	2.5×22.0
12	染付海老文皿(2点)	昭和10～20年代	3.5/3.5×22.9/22.2
13	染付福字皿	昭和4年	2.0×22.0
14	赤絵碗形向付	昭和10～20年代	5.7×12.0
15	染付竹文皿	昭和10年代	4.2×35.9
16	赤絵魚文皿	昭和10年代	1.8×28.5
17	色絵文字皿	昭和10年代	3.4×28.2
18	富士鉢	昭和10年代	12.2×24.8
19	赤呉須独楽蓋向付	昭和10年代	8.3×12.0
20	赤呉須水注	昭和10年代	7.6×7.5
21	色絵金襴手水注	昭和10年代	7.5×8.0
22	蟹絵平鉢	昭和10年代	4.0×17.2
23	赤絵金襴手酒盃	昭和12年	3.5×6.2

24	赤呉須徳利	昭和10年代	12.0×9.0
25	赤玉酒盃	昭和10年代	2.9×4.9
26	志野かすみ台鉢	不詳	6.4×13.4
27	志野台鉢	昭和10年代	7.4×25.6
28	絵志野雪笹小皿(2点)	昭和10～20年代	2.1/2.0×12.0/12.3
29	志野草文皿	昭和10～20年代	2.4×24.0
30	志野葡萄文平鉢	昭和10年代	3.0×34.6
31	志野魚文皿	昭和10～20年代	2.3×24.5
32	志野缸鉢	昭和10年代	3.2×14.7
33	志野鉢	昭和10～20年代	8.4×19.1
34	ねずみ志野輪花台鉢(2点)	不詳	4.7/4.5×13.2/13.7
35	鼠志野輪花向付	昭和10年代	4.3×13.2
36	紅志野酒呑	昭和10～20年代	4.4×5.0
37	志野酒呑	昭和10～20年代	4.5×5.5
38	刷毛目寿文鉢	昭和10年代	8.4×18.5
39	刷毛目鉢	昭和10～20年代	8.3×19.8
40	軸「大明製染付鉢図」	昭和16年	40.0×50.8
41	織部かすみ平鉢	昭和10年代前半	4.0×35.7
42	織部桶鉢	昭和10～20年代	30.3×22
43	織部扇面鉢	昭和10年代	6.8×25×22.5
44	織部蓋向付	昭和初期	8.9×16.0
45	織部蘭絵小皿	昭和20年以降	3.5×12.6
46	織部ユノサハ銘湯のみ	昭和10～20年代	8.9×7.5
47	織部しのぎ湯のみ	昭和10年代	8.2×7.8
48	絵瀬戸有平文湯のみ	昭和10～20年代	9.0×7.8
49	織部土瓶	昭和20年以降	9.7×15.3×12.7
50	織部草絵八角深向付	昭和10～20年代	9.3×8.0
51	織部深向付	昭和10～20年代	7.5×6.8
52	織部分銅形深向付	昭和10～20年代	7.7×7.5
53	織部三角深向付	昭和10～20年代	11.5×8.3×7.3
54	総織部四方向付(3点)	昭和初期	8.7/9.0/8.9×11.1/11.4/11.5× 11.3/11.4/11.5
55	総織部替蓋付銅形鉢	昭和15年以降	11.9×19.3
56	総織部缸鉢	昭和10～20年代	8.6×21.9
57	総織部長平鉢	昭和10年代	5.5×42.4×21.6
58	軸「椿図」	不詳	35.3×47.2
59	伊賀釉長鉢	昭和10年代	3.0×39.0×20.0
60	伊賀釉平鉢	昭和10年代	6.4×36.5
61	織部扇面鉢	昭和10～20年代	7.8×29.8×27
62	総織部櫛目寿文四方隅切平鉢	昭和10～20年代	4.3×22.7×22.7
63	総織部大鉢	昭和10年代	8.9×24.5
64	伊賀花生	昭和20年代	17.8×9.8
65	竹形花入	昭和10年代	27.0×9.4
66	伊賀壺	不詳	16.0×12.3
67	土釜「利根坊耳を作る」	昭和10年代	13.8×20.4
68	渋紙手鉢	昭和10～20年代	8.3×24.4
69	備前風平鉢	昭和10年代	6.3×28.5×27
70	絵瀬戸草文皿	昭和10～20年代	2.7×23.5
71	絵瀬戸鉢	昭和初期	9.3×21.0
72	麦藁手飯茶碗	昭和20年以降	7.3×10.8
73	鉄絵葡萄文碗	昭和10年代	5.5×10.7
74	黄瀬戸福字鉢	不詳	5.6×24.7

75	黄瀬戸あやめ文鉦鉢	昭和10年代	6.4×24.2
76	信楽灰被花入	昭和20年代以降	16.0×18.0
77	軸「不老椿図」	不詳	45.2×56.6
78	軸「年魚図」	不詳	39.8×51.3
79	志野香合「くづや」	昭和10年代	4.5×6.5
80	志野茶碗	昭和10年代	8.9×12.0
81	志野筒茶碗	昭和10～20年代	7.5×9.7
82	志野筒茶碗	昭和10年代	7.5×9.5
83	軸「千里同風」	不詳	26.0×23.6
84	黄瀬戸香合	昭和10年代	2.8×6.0
85	黄瀬戸筒茶碗	昭和10～20年代	8.3×9.9
86	黄瀬戸筒茶碗	昭和10年代	8.0×10.5
87	刷毛目茶碗	不詳・昭和10年代	6.1×15.3
88	瀬戸黒茶碗	昭和20年以降	7.3×12.5
89	備前茶碗	昭和20年以降	7.5×11.3
90	染付竹絵水指	昭和10年代	20.1×14.0
91	伊賀建水	昭和10～20年代	10.4×16.5
92	黄伊羅保茶碗	昭和10年代	6.0×15.3
93	皮鯨茶碗	昭和10年代	6.6×13.4
94	赤志野茶碗	昭和20年以降	8.0×10.5
95	黄伊羅保茶碗	昭和10年代	6.0×15.5
96	備前茶碗	昭和20年以降	6.7×12.0
97	刷毛目茶碗	昭和10年代	6.5×14.3
98	額「百川異流同会海」	昭和15年	30.2×167.0
資料	料理と器の写真パネル 写真:秋元茂 料理:横山夫紀子		
1	総織部長平鉢—小松菜	平成元年	102.7×72.8
2	赤絵魚文皿—大根	平成元年	102.7×72.8
3	色絵文字皿—かぶ、セロリ	平成元年	102.7×72.8
4	雲錦大鉢—大根	平成元年	102.7×72.8
5	備前風平鉢—油あげ	平成元年	102.7×72.8
6	瀬戸黒茶碗—白菜・油あげ	平成元年	102.7×72.8
7	志野葡萄文平鉢—隠元豆、茗荷	平成元年	102.7×72.8
8	総織部櫛目寿文四方隅切平鉢—大根	平成元年	102.7×72.8
9	伊賀釉平鉢—茄子	平成元年	102.7×72.8

### ■ 3 開館 20 周年記念展 花ひらくエコール・ド・パリの画家たち パスキン、そしてシャガール、フジタ、ローランサン

種 別	企画展
会 期	7月16日(土)～9月4日(日)
主 催	平塚市美術館
特別協力	北海道立近代美術館
協 賛	神奈川中央交通株式会社
開館時間	9:30-17:00(入場は-16:30)
休館日	月曜日
観覧料	一般800円、高大生500円 ※20周年記念イベント:無料観覧デー 7月20日(水)、8月20日(土)
開催日数	44日
入場者数	11,533人
担 当	江口恒明(当館学芸員)



チラシ



ワークシート



パスキン《花束をもつ少女》

1925年

#### ●内容

北海道立近代美術館のコレクションを中心に、ジュール・パスキン、マルク・シャガール、藤田嗣治、マリー・ローランサンなどエコール・ド・パリの画家の作品を紹介しました。

1920年代から30年代にかけてのパリは、美術・音楽・演劇・文学など様々な分野において、世界各地から芸術家が集まり、旺盛な制作活動をおこなった華やかな時代でした。彼らはエコール・ド・パリの芸術家として知られています。

本展の中心となるジュール・パスキンもその中のひとりに数えられます。パスキンは、ブルガリアで穀物商の家庭に生まれました。17歳のとき画家を志し、19歳でミュンヘンの雑誌の挿絵画家となるなど、早くからその才能を開花させました。1905年、パリへ移って本格的に画家への道を歩み始めます。モンパルナスのカフェに通いながらパリに暮らす人々を描き、サロン・ドートンヌ、サロン・デ・ザンデパンダンなどの展覧会に出品。この間、小説家や詩人、評論家をはじめ、キスリング、スーチン、藤田嗣治などの画家たちと交流します。第一次大戦が始まるとアメリカへ渡り、メキシコやキューバなど各地を旅行しながらキュビズム、フォーヴィスム風の表現を取り入れた作品を制作しました。戦後は再びパリへ戻り、夜毎に街へ繰り出して、お祭り騒ぎを繰り広げる生活を送り、1930年頃には、これまでの絵画の探究を結実させ、人気作家として活躍しました。

同館のコレクションには、パスキンとの交流を軸として、上記作家のほかモイズ・キスリング、ハイム・スーチン、アンドレ・ドラン、モーリス・ユトリロ、ジョルジュ・ルオーなどの作品があります。彼らはパスキンと同じく、当時の革新的な絵画を取り入れながらも、パリの人々の生活や町並みに焦点をあて、それぞれが個性的な表現を追究しています。同館コレクションのほか神奈川県立近代美術館、横須賀美術館の所蔵作品をまじえ、甘美な雰囲気の中に哀愁と不安を漂わせたエコール・ド・パリの画家の作品を当時の時代の空気を感じつつお楽しみいただきました。

## ●関連事業

### ○講演会

日時 7月30日(土) 14:00～15:30  
 講演タイトル エコール・ド・パリとその時代 北海道立近代美術館のコレクションを中心に  
 講師 佐藤幸宏 氏 (北海道立近代美術館 学芸第一課長)  
 場所 ミュージアムホール  
 参加者数 60人

### ○当館学芸員によるギャラリートーク

日時 8月7日(日)、27日(土) 各回 14:00～14:40  
 場所 展示室 I  
 参加者数 計 55人

### ○中学生対象 アート・サマー・セミナー

開催日 8月18日(木)  
 講師 江口恒明 (当館学芸員)  
 対象 中学生  
 場所 アトリエ  
 参加者数 15人

## ●出品リスト

NO	作家名	作品名	制作年	技法材質	サイズ(cm)	展示
1	マルク・シャガール	パリの空に花	1967年	油彩・キャンバス	148.0×140.0	全期
2	マルク・シャガール	扉絵	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.7×32.3	前期
3	マルク・シャガール	ラモーン、ダフニスを見つける	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.7×32.6	後期
4	マルク・シャガール	ドリュアース、クロエを見つける	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×32.6	前期
5	マルク・シャガール	ラモーンとドリュアースの夢	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.6×32.3	後期
6	マルク・シャガール	牧場の春	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.6×64.5	前期
7	マルク・シャガール	狼の落とし穴	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.0×32.1	前期
8	マルク・シャガール	泉のほとりのダフニスとクロエ	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×32.3	前期
9	マルク・シャガール	クロエの判断	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.0×64.2	後期
10	マルク・シャガール	クロエのくちづけ	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×32.3	後期
11	マルク・シャガール	ドルコーンのたくらみ	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×32.4	前期
12	マルク・シャガール	真昼、夏	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×32.5	前期
13	マルク・シャガール	燕	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×32.4	後期
14	マルク・シャガール	ドルコーンの死	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.3×64.5	前期
15	マルク・シャガール	ニンフたちの洞窟	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.3×64.6	後期
16	マルク・シャガール	葡萄の取り入れ	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×32.5	後期
17	マルク・シャガール	フィレータースの果樹園	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×64.6	後期
18	マルク・シャガール	フィレータースの教えたこと	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×32.5	前期
19	マルク・シャガール	メーテュムナの若者たち	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.3×32.3	後期
20	マルク・シャガール	クロエの誘拐	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×64.3	後期
21	マルク・シャガール	ダフニスの夢とニンフたち	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×32.8	前期
22	マルク・シャガール	ブリュアクシス司令官の夢	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×64.7	前期

23	マルク・シャガール	ニンフたちへの捧げ物	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×32.3	後期
24	マルク・シャガール	牧神パーンの饗宴	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×32.5	後期
25	マルク・シャガール	シュリンクスの物語	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×32.5	後期
26	マルク・シャガール	冬	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×32.4	後期
27	マルク・シャガール	小鳥狩り	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.3×64.4	前期
28	マルク・シャガール	ドリュアース家での食事	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×64.5	前期
29	マルク・シャガール	春	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×65.0	後期
30	マルク・シャガール	ダフニスとリュカイニオン	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×32.3	前期
31	マルク・シャガール	木霊(エーコー)	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×64.3	前期
32	マルク・シャガール	夏の季節	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×32.3	後期
33	マルク・シャガール	死んだイルカと300エキュ	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.7×32.5	前期
34	マルク・シャガール	クロエ	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×32.0	前期
35	マルク・シャガール	果樹園	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×64.7	前期
36	マルク・シャガール	バックス神の社とそこに描かれているで きごと	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.5×64.7	後期
37	マルク・シャガール	荒らされた花々	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.3×32.4	前期
38	マルク・シャガール	ダフニスとグナトーン	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.6×32.5	前期
39	マルク・シャガール	ディオニューソファネースの到着	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.6×32.3	後期
40	マルク・シャガール	クリアリステーに着付けと髪結いをして らうクロエ	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.3×32.5	後期
41	マルク・シャガール	メグレースはクロエが自分の娘であるこ とに宴の間に気がつく	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.4×64.5	後期
42	マルク・シャガール	ニンフたちの洞窟での婚礼の祝宴	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.3×64.3	前期
43	マルク・シャガール	結婚	1957～60年	リトグラフ・アルシュ紙	42.3×64.2	後期
44	エルミーヌ・ダヴィッド	自画像-17歳	1904年	水彩・紙	71.5×52.5	前期
45	エルミーヌ・ダヴィッド	パリ郊外-二匹の白い犬	1921年	油彩・紙、ボード	54.5×65.0	全期
46	エルミーヌ・ダヴィッド	森の散歩道	1922年頃	油彩・キャンバス	58.5×71.5	全期
47	エルミーヌ・ダヴィッド	ロンシャン競馬場でのゴールイン	1932年	油彩・キャンバス	73.0×92.0	全期
48	モーリス・ド・ヴラマンク	風景	1920年頃	油彩・キャンバス	73.5×93.0	全期
49	モーリス・ド・ヴラマンク	村	1950年代	油彩・キャンバス	48.4×59.5	全期
50	アンドレ・ドラン	マルティグ風景	1908年	油彩・キャンバス	100.0×81.0	全期
51	アンドレ・ドラン	裸婦	1928～29年頃	油彩・キャンバス	92.4×72.4	全期
52	アンドレ・ドラン	猫と裸婦	1936～38年頃	油彩・キャンバス	108.3×150.5	全期
53	藤田嗣治	二人の女	1918年	油彩・キャンバス	92.2×73.3	全期
54	藤田嗣治	フランス娘	1945年頃	木版・紙	39.2×26.0	前期
55	キスリング	サン・ジェルマン風景	1914年	油彩・キャンバス	92.0×73.0	全期
56	キスリング	魚の静物	1924年	油彩・キャンバス	81.0×100.0	全期
57	キスリング	晴着の婦人	1925年	油彩・キャンバス	73.0×60.0	全期
58	キスリング	半裸婦	1926年	油彩・キャンバス	73.5×54.8	全期
59	キスリング	オランダの娘	1928年	油彩・キャンバス	100.4×73.4	全期
60	パール・クローグ	ローブをまとったテレーズ	1925年	油彩・キャンバス	92.0×60.0	全期
61	パール・クローグ	肘掛け椅子の女	1925年	油彩・キャンバス	81.0×60.0	全期
62	マリー・ローランサン	婦人像	1920年	油彩・キャンバス	73.5×61.0	全期
63	マリー・ローランサン	犬と三人の乙女	1930～40年	水彩・紙	27.5×37.5	後期
64	マリー・ローランサン	三人の娘	1943年	油彩・キャンバス	61.0×49.8	全期
65	アンドレ・ロート	水浴	1918年	油彩・キャンバス	60.0×73.0	全期
66	アメデオ・モディリアニ	フジタの肖像	1919年	鉛筆・紙	48.5×20.0	後期
67	ジュル・バスキン	女学生	1908年	油彩・キャンバス	55.0×46.0	全期

68	ジュール・パスキン	荒野の騎手	1909年	油彩・ペーパーボード	19.0×33.0	全期
69	ジュール・パスキン	人形	1910年	油彩・カルトン	22.5×24.0	全期
70	ジュール・パスキン	ソファに腰かけるシュザンヌ	1911年	油彩・キャンバス	65.5×54.0	全期
71	ジュール・パスキン	裸婦の構図	1915年	油彩・キャンバス	46.0×55.0	全期
72	ジュール・パスキン	良きサマリア人	1917年	油彩・キャンバス	73.5×66.3	全期
73	ジュール・パスキン	みづくろいする女	1917年	油彩・キャンバス	55.0×66.0	全期
74	ジュール・パスキン	カフェの庭で(みづくろいする女裏面)	1917年	油彩・キャンバス	55.0×66.0	全期
75	ジュール・パスキン	キューバの人達	1917年	油彩・キャンバス	53.0×64.0	全期
76	ジュール・パスキン	アンドレ・サルモンとモンマルトル	1921年	油彩・紙	195.0×129.8	全期
77	ジュール・パスキン	二人のモデル	1924年	油彩・キャンバス	99.0×80.0	全期
78	ジュール・パスキン	肘掛け椅子のモデル	1925年	油彩・キャンバス	54.6×45.7	全期
79	ジュール・パスキン	花束をもつ少女	1925～26年	油彩・キャンバス	80.0×64.0	全期
80	ジュール・パスキン	三人の女達	1927年	油彩・キャンバス	54.0×64.0	全期
81	ジュール・パスキン	腰かける女	1928年	油彩・キャンバス	76.0×63.0	全期
82	ジュール・パスキン	ジナとルネ	1928年	油彩・キャンバス	90.5×71.3	全期
83	ジュール・パスキン	恋人たち	1930年	油彩・板	46.0×38.0	全期
84	ジュール・パスキン	三人の裸婦	1930年	油彩・キャンバス	81.8×100.0	全期
85	ジュール・パスキン	婦人と犬と子ども	1902年頃	インク、水彩・紙	19.7×15.9	前期
86	ジュール・パスキン	祭	1903年頃	インク、水彩・紙	20.3×20.6	前期
87	ジュール・パスキン	客と3人の娘たち	1904年	水彩・紙	20.4×13.8	後期
88	ジュール・パスキン	女たち	1906年頃	鉛筆、ペン・紙	16.0×21.0	前期
89	ジュール・パスキン	ドラマ	1907年	銅版・紙	11.8×8.8	後期
90	ジュール・パスキン	寄合	1908年	鉛筆、ペン・紙	22.4×17.2	前期
91	ジュール・パスキン	洗濯女	1909年	銅版・紙	16.6×23.0	後期
92	ジュール・パスキン	犬の愛嬌	1909年	水彩、ペン・紙	12.1×8.3	後期
93	ジュール・パスキン	相続人	1910年	インク、淡彩・紙	19.7×13.0	後期
94	ジュール・パスキン	三美神の舞台	1910年	水彩、ペン・紙	14.0×16.4	前期
95	ジュール・パスキン	パリの貧民区	1910年	水彩・紙	13.1×13.8	後期
96	ジュール・パスキン	黒いスカートのエルミーヌ	1911年	鉛筆、水彩・紙	30.8×21.0	後期
97	ジュール・パスキン	木陰にて	1912年	クレヨン、パステル・紙	19.0×15.0	前期
98	ジュール・パスキン	魚売りの女たち	1912年	木版・紙	14.3×11.2	前期
99	ジュール・パスキン	夏の宵	1912年	銅版・紙	16.1×10.2	後期
100	ジュール・パスキン	カフェにて	1913年	銅版・紙	12.2×17.2	前期
101	ジュール・パスキン	四人の女	1914年	鉛筆、淡彩・紙	17.8×20.6	後期
102	ジュール・パスキン	肘掛け椅子のエルミーヌ	1914年	鉛筆、水彩・紙	32.0×21.3	前期
103	ジュール・パスキン	キュピスト風の女性像	1916年	水彩・紙	24.1×12.9	後期
104	ジュール・パスキン	市場	1915～16年	鉛筆、ペン・紙	27.7×43.2	前期
105	ジュール・パスキン	ニューヨーク風景(バトリー・パーク)	1916年	銅版・紙	11.9×15.3	後期
106	ジュール・パスキン	キューバの外輪船	1917年	鉛筆、水彩・紙	19.1×25.7	後期
107	ジュール・パスキン	ハバナの港	1917年	鉛筆、淡彩・紙	16.8×21.0	前期
108	ジュール・パスキン	習作	1917年	インク、淡彩・紙	21.0×14.0	後期
109	ジュール・パスキン	キューバ風景Ⅰ	1917年	鉛筆、淡彩・紙	26.0×20.8	前期
110	ジュール・パスキン	キューバ風景Ⅱ	1917年	鉛筆、淡彩・紙	16.5×25.1	後期
111	ジュール・パスキン	エウロペの略奪	1923年	銅版・紙	9.7×13.6	前期
112	ジュール・パスキン	浜辺	1917年	銅版・紙	14.0×18.0	前期
113	ジュール・パスキン	新聞を読む人	1918年	インク、淡彩・紙	22.9×19.4	後期
114	ジュール・パスキン	エルミーヌ・ダヴィッド	1918年	コンテ・紙	27.9×21.3	前期
115	ジュール・パスキン	公園にて	1918年	コンテ、淡彩・紙	19.7×27.0	前期
116	ジュール・パスキン	習作Ⅰ	1919年	インク、淡彩・紙	22.2×32.4	後期

117	ジュール・パスキン	マルセイユの港	1920年	コンテ、淡彩・紙	20.0×26.0	後期
118	ジュール・パスキン	ホワイアティエ街11番地	1920年	銅版・紙	16.2×11.5	前期
119	ジュール・パスキン	マルティグ風景	1921年	カーボン、淡彩・紙	32.1×38.1	前期
120	ジュール・パスキン	授業を受ける娘たち	1921年	カーボン・紙	40.6×58.4	前期
121	ジュール・パスキン	チュニスの市場	1921年	銅版・紙	17.8×13.2	後期
122	ジュール・パスキン	娘たち	1922年	カーボン、淡彩・紙	36.2×48.6	後期
123	ジュール・パスキン	ユディトとホロフェルネス	1922年	銅版・紙	9.2×13.5	前期
124	ジュール・パスキン	マッコルランの肖像	1923年	木炭・紙	37.3×28.2	後期
125	ジュール・パスキン	女たち	1924年	銅版・紙	13.0×17.8	後期
126	ジュール・パスキン	マッコルラン	1924年	水彩・紙	26.2×37.2	前期
127	ジュール・パスキン	バル・タバラン	1925年	鉛筆、淡彩・紙	25.7×33.3	後期
128	ジュール・パスキン	ソロモンの審判	1925年	銅版・紙	26.5×26.7	前期
129	ジュール・パスキン	フロリダの黒人たち	1925年	銅版・紙	20.0×25.3	後期
130	ジュール・パスキン	男と女	1925年頃	ペン・紙	16.6×19.4	前期
131	ジュール・パスキン	ゲオルク・アイゼンマン I	1926年	コンテ、パステル・紙	48.9×63.5	前期
132	ジュール・パスキン	ゲオルク・アイゼンマン夫妻	1926年	インク、淡彩・紙	45.4×62.5	後期
133	ジュール・パスキン	放蕩息子と娘たち	1926年	銅版・紙	33.5×47.9	後期
134	ジュール・パスキン	プッサンによる習作	1926年	水彩、ペン・紙	17.7×20.9	前期
135	ジュール・パスキン	マダガスカルの貴族	1927年	銅版・紙	13.0×13.0	前期
136	ジュール・パスキン	祝宴	1927年	銅版・紙	16.8×24.5	前期
137	ジュール・パスキン	サロメ、サロメ	1927年	銅版・紙	23.9×31.6	後期
138	ジュール・パスキン	国吉夫人	1927年	鉛筆・紙	54.4×43.0	後期
139	ジュール・パスキン	髪結	1928年	木炭・紙	47.3×31.0	前期
140	ジュール・パスキン	ポップ・ハートとその友達	1929年	カーボン・紙	45.0×70.0	前期
141	ジュール・パスキン	かみあわない下手なジャズ	1929年	銅版・紙	22.9×27.9	後期
142	ジュール・パスキン	パスキン氏をいたぶる意地悪な人々	1929年	水彩・紙	61.0×47.0	前期
143	ジュール・パスキン	恋人たち I	1930年	鉛筆・紙	32.8×21.8	前期
144	ジュール・パスキン	恋人たち II	1930年	鉛筆・紙	32.0×41.6	後期
145	ジュール・パスキン	シンデレラ	1930年	銅版・紙	35.0×25.1	前期
146	ジュール・パスキン	シンデレラ	1930年	銅版・紙	35.0×25.0	前期
147	ジュール・パスキン	シンデレラ	1930年	銅版・紙	25.3×35.3	後期
148	ジュール・パスキン	シンデレラ	1930年	銅版・紙	35.2×25.3	後期
149	ジュール・パスキン	シンデレラ	1930年	銅版・紙	35.2×25.0	後期
150	ジュール・パスキン	ヘロデ王の前で踊るサロメ	1930年	銅版・紙	45.5×57.0	後期
151	ジョルジュ・ルオー	聖なる顔	1939年	油彩・紙	56.0×41.0	全期
152	ハイム・スーチン	祈る男	1921年頃	油彩・キャンバス	94.0×51.0	全期
153	モーリス・ユトリロ	モンルーージュの通り(セーヌ)	1910年頃	油彩・キャンバス	57.5×79.3	全期
154	モーリス・ユトリロ	シセイ・アン・モルヴァン	1914年頃	油彩・ボード	46.0×60.0	全期
155	キース・ヴァン・ドンゲン	アガータ・ヴェグリフ・グラヴェスタインの肖像	1909年	油彩・キャンバス	100.0×81.0	全期
156	キース・ヴァン・ドンゲン	ボドリ・ダッソン侯爵夫人	1919年	油彩・キャンバス	130.5×97.5	全期
157	藤田嗣治	ル・アーブルの港	1917年	油彩・キャンバス	60.9×45.8	全期
158	藤田嗣治	二人裸婦	1930年	油彩・キャンバス	143.4×125.2	全期

※シャガール作品NO2～43は連作「ダフニスとクロエ」からの出品となります。

※作品NO157は、横須賀美術館所蔵。NO158は、神奈川県立近代美術館所蔵。

## ■ 4 アーティスト in 湘南 I 工藤甲人・伊藤彬・中野嘉之・山本直彰・斉藤典彦

種別	特集展
会期	7月22日(金)～9月11日(日)
主催	平塚市美術館
開館時間	9:30-17:00(入場は-16:30)
休館日	月曜日
観覧料	一般200円、高大生100円 ※20周年記念イベント 無料観覧デー 8月20日(土)
開催日数	45日
入場者数	9,591人
担当	安部沙耶香(当館学芸員)



チラシ



工藤甲人《愉しき仲間(一)》1951年



会場風景

### ●内容

開館20周年を記念し、湘南ゆかりの作家をご紹介します「アーティスト in 湘南」を開催しました。当館は平塚市及び湘南地方に関わりの深い作家の作品を収集し展示することを館の活動の大きな柱のひとつとしています。第1弾の「アーティスト in 湘南 I ～工藤甲人・伊藤彬・中野嘉之・山本直彰・斉藤典彦～」では過去に当館で個展を開催した日本画家5名の作品43点をご紹介します、魅力あふれる現代日本画の世界をお楽しみいただきました。

### ●出品作家

#### 工藤甲人(くどうこうじん 1915-2011)

青森県弘前市に生まれ、19歳の時に故郷を離れ、川端画学校に入学し絵の道に進み始めました。その後、福田豊四郎に師事しますが、応召により一時期制作を中断せざるを得ませんでした。戦後、苦難の時期を経、平塚市に転居すると故郷弘前の自然を題材に夢幻的な世界を描き注目を集めました。当館では1991年に「画業50年 工藤甲人展—夢幻の彼方から」を開催しました。

※工藤先生は会期中の7月29日に逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

#### 伊藤彬(いとうあきら 1940-)

兵庫県西宮市に生まれ、現在は秦野市で制作を続けています。東京藝術大学を卒業後まもなく新制作協会展に入選を果たし、74年には創画会の創立メンバーとなりました。初期の作風はルドンや関根正二の影響が色濃いものでありましたが、80年代後半から移ろいゆく自然をモチーフとしたモノクロームの作風へと変化し自身の画風を確立させました。当館では2008年に「伊藤彬展—モノクロームによる現代の表現—」を開催しました。

### 中野嘉之(なかのよしゆき 1946-)

京都府京都市に生まれ、現在は箱根で制作を続けています。多摩美術大学在学中に新制作協会展で入選を果たし、1974年からは創画展に出品しました。壮大な自然をダイナミックに表現し高い品格をそなえた作品は定評があり、平成16年度芸術選奨文部科学大臣賞を受賞しました。当館では2005年に「中野嘉之 芸術選奨文部科学大臣賞受賞記念展」を開催しました。

### 山本直彰(やまもとなおあき 1950-)

神奈川県横浜市に生まれ、現在は藤沢市で制作を続けています。愛知県立芸術大学院在学中から新制作協会展に出品し、修了後は創画展に出品を続けました。1992年から文化庁芸術家在外派遣研修員としてチェコ・プラハに留学したことからDOORの連作に見られるような新たな絵画の可能性を切り拓きました。当館で2009年開催の「日本画の今 山本直彰展 帰還する風景」に発表した「帰還」シリーズは高く評価され、平成21年度芸術選奨文部科学大臣賞を受賞しました。

### 齊藤典彦(さいとうのりひこ 1957-)

平塚市に生まれ、現在も平塚市で制作を続けています。東京藝術大学在学中から創画展に出品し、1989年、第10回山種美術館賞で優秀賞を受賞しました。1995年から文化庁派遣芸術家在外派遣研修員としてイギリス・ロンドンに留学し、この頃から《Water Land》シリーズといった水の国日本を表す新たな山水の制作が始まります。近年では日経日本画大賞展に連続入選をし、両洋の眼展では河北倫明賞を受賞しました。当館では2007年に「齊藤典彦展ーきもちよくながれる」を開催しました。

## ●関連事業

### ○出品作家によるアーティストトーク

講師	齊藤典彦 氏(日本画家)
日時	7月24日(日) 14:00-14:40
場所	展示室Ⅱ
参加者数	28人

講師	山本直彰 氏(日本画家)
日時	8月20日(土) 14:00-14:40
場所	展示室Ⅱ
参加者数	70人

### ○出品作家によるワークショップ

講座名	夏休み日本画体験!!
日時	8月21日(日) 13:30~16:30
講師	山本直彰 氏(日本画家)
場所	アトリエ
参加者数	19人

### ○担当学芸員によるギャラリートーク

日時	8月7日(日)、27日(土) 15:00~15:30
場所	展示室Ⅱ
参加者数	計45人

●出品リスト

NO	作家名	作品名	制作年	技法材質	サイズ(cm)	所蔵
1	工藤 甲人	愉しき仲間(一)	1951年	彩色・紙	162.3×130.3	当館
2	工藤 甲人	愉しき仲間(二)	1951年	彩色・紙	130.5×162.0	当館
3	工藤 甲人	蝶の階段	1967年	彩色・紙	135.7×190.9	当館
4	工藤 甲人	霧中夢	1969年	顔彩・紙	135.0×190.0	当館寄託
5	工藤 甲人	杉	1983年	彩色・紙	162.1×113.6	当館
6	工藤 甲人	相	1984年	彩色・紙	166.4×267.8	当館
7	工藤 甲人	残景図	1986年	彩色・紙	205.1×144.0	当館
8	工藤 甲人	冬玄郷一妝	1992年	彩色・紙	160.2×197.2	当館
9	工藤 甲人	寂光土	1994年	彩色・紙	197.0×160.0	当館
10	工藤 甲人	予兆	1998年	彩色・紙	197.0×160.0	当館
11	伊藤 彬	夢の入口	1963年	彩色・紙	80.0×64.0	当館
12	伊藤 彬	私の好きなもの	1968年	彩色・紙	99.0×76.5	当館
13	伊藤 彬	祖母に聞いた話1	1969年	彩色・紙	180.0×120.0	当館
14	伊藤 彬	森を渡る風	1979年	彩色・紙	61.0×50.0	当館
15	伊藤 彬	華のうてな	1979年	彩色・紙	130.0×162.0	当館
16	伊藤 彬	月のうてな	1986年	彩色・紙	176.0×265.0	当館
17	伊藤 彬	帰林帰水	1994年	墨、木炭・麻紙	180.0×240.0	当館
18	伊藤 彬	山水-うつろふ1	1997年	墨、木炭・紙	210.0×360.0	当館
19	伊藤 彬	山水-うつろふ2	1997年	墨、木炭・紙	210.0×360.0	当館
20	伊藤 彬	山水-行旅2	1998年	墨・紙	182.0×121.0	当館
21	伊藤 彬	山水-行旅3	1998年	墨・紙	182.0×121.0	当館
22	伊藤 彬	山水-行旅5	1998年	墨・紙	182.0×121.0	当館
23	中野 嘉之	潮の風	1972年	彩色・紙	89.0×115.0	当館寄託
24	中野 嘉之	樹-風の音	1988年	彩色・紙	227.3×200.0	当館寄託
25	中野 嘉之	樹涛	1992年	彩色、金、銀・紙	208.5×423.0	当館寄託
26	中野 嘉之	刻	2004年	彩色・紙	190.5×690.0	当館
27	中野 嘉之	秋の風	不詳	彩色・紙	64.1×90.0	当館寄託
28	山本直彰	IKAROS	1986年	彩色・紙	162.2×130.3	当館
29	山本直彰	DOOR	1992年	彩色・紙	181.8×227.3	当館寄託
30	山本直彰	Untitled	1993年	彩色・木	198.5×91.4	当館
31	山本直彰	Republic Square I	1993年	彩色・木	172.0×72.0	当館
32	山本直彰	Republic SquareIII	1993年	彩色・木	190.0×72.0	当館
33	山本直彰	Republic SquareIV	1993年	彩色・木	229.0×98.6	当館
34	山本直彰	IKAROS 901	2001年	彩色・紙	201.0×285.5	当館
35	山本直彰	帰還 I	2009年	彩色・紙	363.6×333.3	当館
36	山本直彰	帰還 II	2009年	彩色・紙	333.3×552.0	当館
37	山本直彰	IKAROS-2011	2011年	彩色・紙	333.3×248.5	作家蔵
38	斉藤 典彦	MORI O OMOU-3	1991年	彩色・紙、木	116.8×116.8	当館寄託
39	斉藤 典彦	Water Land-7	1994年	彩色・紙	183.5×286.0	当館
40	斉藤 典彦	Luminous:内なる光	1999年	彩色・絹	左194.0×420.0 中央194.0×700.0 右194.0×420.0	当館寄託
41	斉藤 典彦	かのみず	2001年	彩色・絹	280.0×194.0	当館寄託
42	斉藤 典彦	彼の水へ	2001年	彩色・紙	(中)102.0×18.10 (左右)各58.0×24.0	当館寄託
43	斉藤 典彦	in her garden	2006年	彩色・紙	194.0×130.3	当館寄託

## ■ 5 アーティスト in 湘南Ⅱ 高良眞木・内田あぐり・石井礼子

種別	特集展
会期	9月17日(土)～11月27日(日)
主催	平塚市美術館
開館時間	9:30-17:00(入場は-16:30)
休館日	月曜日 ※9月19日、10月10日は開館。翌日休館。
観覧料	一般200円、高大生100円
開催日数	62日
入場者数	14,260人
担当	小池光理(当館学芸員)



チラシ



高良眞木《青年・ケンカ》1957年



内田あぐり《吊された男#01K》2001年

### ●内容

平塚市美術館開館20周年を記念し、湘南ゆかりの作家を紹介する特集展「アーティスト in 湘南Ⅱ」を開催しました。当館は開館以来、平塚市及び湘南地方に関わりの深い作家の作品を収集し展示することを館の活動の大きな柱のひとつとしています。第2弾の「アーティスト in 湘南Ⅱ～高良眞木・内田あぐり・石井礼子～」では作品106点をご紹介します。

本展でご紹介する3作家は、それぞれが身近な世界にまなざしを向け、そこから世界と自分という存在に対する関わりを探究しています。湘南の個性あふれるアーティストの作品をお楽しみいただきました。

### ●出品作家

#### 高良眞木(こうらまき 1930-2011)

精神医学者の高良武久を父に、参議院議員で女性運動家のとみを母にもち、東京の自由学園に通う開明的な教育を受けました。戦後の1949年に渡米し1953年にはパリのグラン・ショミエールでデッサンを学びました。初期にはシュルレアリスムの影響を感じさせる幻想的な心象風景を描きますが、やがて自然をよく観察することで「物を存在させる力」を表現したいと、静物画や風景画、とりわけ樹木のデッサンに多く取り組みました。1963年以降、真鶴に移り住み、「人の営みのある風景に惹かれる」と語った高良は、人間が自然と共に生きることを理想としました。日中友好協会の運営にも深く携わった高良ですが、その眼差しは、画家と社会活動家としての活躍とともに貫く光となっています。

※高良先生は準備期間中の2月2日に逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

### 内田あぐり(うちだあぐり 1949-)

現在、武蔵野美術大学で日本画の教鞭をとり、葉山町にアトリエを構えて制作をしています。70年代には、どこか陰りのある和服の女性像を描きますが、より人体そのものに惹かれて、抽象的な作風へと移行しました。「垂らし込み」という古典技法で、胡粉の上に墨を重ねて人間の陰影を表現し、墨ならではの玄妙な色のうつろいで、社会の枠組みによって、変化・変容を強いられていく身体を描き出しました。「わたしが描きたいもの、それは人間の存在である」と語る内田は、伝統的な日本画の画材を用いながら、スクラッチングや、ガンタッカーで和紙をコラージュするなど、大胆な表現で人体の破壊と再生を追求しています。近年の横7メートルにも及ぶ大画面に展開される作品は、従来の日本画のかたちにとらわれない革新性を示しています。

### 石井礼子(いしいれいこ 1974-)

自分を取りまく住環境を、墨を用いたモノトーンの色彩で細密に描写する特異な作風で知られ、藤沢市鶴沼で制作をしています。9歳から田澤茂の児童絵画教室に通い、女子美術大学に進みました。1996年、在学中に新制作展に初入選した「私の周囲(歯みがき)」は、以降「わたしの周囲」シリーズとして連作されます。目に映るものは、商品のロゴまで克明に写しとり、それら日用品の集積で居間やキッチンなど、部屋の空間が埋めつくされる画面は、見る者に眩暈を感じさせる迫力を持ちます。作家の制作は、病により身体の自由が制限されるなか、自分と世界のつながりを手応えとして感じるすべであり、「私が絵で描きたいことは、たくさんの物、たくさんの人、動物、植物に囲まれている私。私は決して一人ではないということ」だと語っています。

## ●関連事業

### ○担当学芸員によるギャラリートーク

日時 10月10日(月・祝)、11月23日(水・祝)各回14:00~14:30  
場所 展示室I  
参加者数 計25人

### ○出品作家によるワークショップ

講座名 動きとリズムを描く～舞踏する人のムービング・デッサン～  
開催日 10月15日(土) 13:30~16:30  
講師 内田あぐり氏(日本画家)  
ムービング・モデル：大竹宥熙氏(おおたけゆうき 舞踏家)  
場所 展示室I・アトリエA  
参加者数 公開舞踏公演：60人(うちワークショップ参加者21人)

## ●出品リスト

NO	作家名	作品名	制作年	サイズ(cm)	技法材質	所蔵
1	高良真木	日月	1956年6月	50.0×60.3	油彩・キャンバス	当館蔵
2	高良真木	赤い木 黒い木	1957年	45.5×52.8	油彩・キャンバス	当館蔵
3	高良真木	丘の径	1956年7月	53.0×41.2	油彩・キャンバス	当館蔵
4	高良真木	丘の径 百日草	1957年頃	60.7×45.5	油彩・キャンバス	当館蔵
5	高良真木	青年・キンセンカ	1957年頃	54.0×41.7	油彩・キャンバス	当館蔵
6	高良真木	塀	1957年	60.5×49.7	油彩・キャンバス	当館蔵
7	高良真木	三本の木	1961年頃	52.8×40.7	油彩・キャンバス	当館蔵
8	高良真木	銀杏	1957年 1月20日	26.2×19.3	コンテ、鉛筆・紙	当館蔵

9	高良真木	木 銀杏	1958年11月26日	29.9×23.5	ペン、クレヨン、鉛筆・紙	当館蔵
10	高良真木	人物	1957年 5月29日	33.6×25.0	コンテ・紙	当館蔵
11	高良真木	バラ	1959年11月18日	25.3×17.9	ペン・紙	当館蔵
12	高良真木	自画像	1961年頃	45.5×38.0	油彩・キャンバス	当館蔵
13	高良真木	少女	1959年頃	54.0×45.8	油彩・キャンバス	当館蔵
14	高良真木	朱木蓮	1961年	64.5×52.3	油彩・キャンバス	当館蔵
15	高良真木	ひまわり	1961年頃	79.5×64.2	油彩・キャンバス	当館蔵
16	高良真木	ヒメジヨンの咲く風景	1958年頃	26.9×21.0	油彩・紙	当館蔵
17	高良真木	山	1961年9月	24.5×33.5	油彩・キャンバス	当館蔵
18	高良真木	人参と玉葱	1961年9月	31.6×40.8	油彩・キャンバス	当館蔵
19	高良真木	ざくろ・五つ	1978年	27.4×41.1	油彩・キャンバス	当館蔵
20	高良真木	アボカドの実	1962年5月	15.7×22.8	油彩・キャンバス	当館蔵
21	高良真木	待つ人	1967年	25.2×18.2	ボールペン・紙	当館蔵
22	高良真木	船を待つ	1967年	25.3×18.1	ボールペン・紙	当館蔵
23	高良真木	網をつくろう	1968年頃	29.9×21.0	鉛筆・紙	当館蔵
24	高良真木	網干場	1970年 5月25日	26.6×37.6	水彩、ペン・紙	当館蔵
25	高良真木	海景	1982年	41.5×32.6	パステル・紙	当館蔵
26	高良真木	海景	1982年	41.5×32.4	パステル・紙	当館蔵
27	高良真木	葉鶏頭	1957年10月	28.8×22.0	油彩・ボード	当館蔵
28	高良真木	草・大地	1961年頃	33.8×25.0	油彩・キャンバス	当館蔵
29	高良真木	樹	1965年5月	64.8×80.4	油彩・キャンバス	当館蔵
30	高良真木	平らなみかん畑	1965年8月	45.5×60.7	油彩・キャンバス	当館蔵
31	高良真木	樹	1962年11月24日	32.1×40.8	コンテ・紙	当館蔵
32	高良真木	樹	1972年12月	37.7×45.0	ペン、墨・紙	当館蔵
33	高良真木	ぶなの樹	1970年頃	37.7×45.0	コンテ・紙	当館蔵
34	高良真木	ゆうかり	1984年3月	52.8×37.0	ボールペン・紙	当館蔵
35	高良真木	ゆうかりと海	1983年	32.9×41.0	コンテ、鉛筆・紙	当館蔵
36	高良真木	風景・水田のある	1983年	50.0×65.3	油彩・キャンバス	当館蔵
37	高良真木	大樹のある風景	1985年	37.0×52.8	水彩、鉛筆・紙	当館蔵
38	高良真木	レタス畑	1980年9月12日	25.2×35.1	色鉛筆・紙	当館蔵
39	高良真木	樹	2006年	35.6×24.7	水彩、鉛筆・紙	当館蔵
40	高良真木	桜、夕景	1996年頃	32.0×40.7	水彩、鉛筆・紙	当館蔵
41	高良真木	雪の富士	1993年3月14日	24.5×34.6	水彩、鉛筆・紙	当館蔵
42	高良真木	読む	1966年2月	25.3×17.5	木炭・紙	当館蔵
43	高良真木	少女	1978年頃	20.7×19.5	フェルトペン・紙	当館蔵
書籍	高良真木	挿絵『野に帰ったバラ』	1960年	-	(理論社)	当館蔵
書籍	高良真木	挿絵『タゴール詩集 新月・ギタンジャリ』	1962年	-	(アポロン社)	当館蔵
書籍	高良真木	挿絵『精神医学者の随想』	1983年	-	(ナツメ社)	当館蔵
書籍	高良真木	表紙絵『非戦を生きる 高良とみ自伝』	1983年	-	(ドメス出版)	当館蔵
書籍	高良真木	挿絵『不思議なお話』	2003年	-	(古今社)	当館蔵
44	内田あぐり	わたしの前にいる、目を閉じている	2007年	240.0×240.0	彩色・紙(雲肌麻紙、岩絵具、墨、膠、布、楮紙)	当館寄託
45	内田あぐり	わたしの前にいる、目を閉じている#09T	2009年	222.0×720.0	彩色・紙(雲肌麻紙、岩絵具、墨、膠、布、楮紙)	当館寄託
46	内田あぐり	Untitled ※デッサン35枚	1978-2011年	-	鉛筆、木炭、水彩・紙等	個人蔵
47	内田あぐり	消光	2010年	220.0×720.0	彩色・紙(雲肌麻紙、岩絵具、墨、膠、布、楮紙)	個人蔵
48	内田あぐり	吊された男 #01K	2001-2011年	240.0×480.0	彩色・紙(岩絵具、墨、布、紙漉、シナベニヤ、楮紙)	当館蔵

49	石井礼子	私の周囲(いただきます)	2004年	211.5×153.0	墨・麻紙	個人蔵
50	石井礼子	自分	1994年	22.5×16.0	墨・麻紙	個人蔵
51	石井礼子	私の周囲(歯みがき)	1996年	152.0×211.5	墨・麻紙	個人蔵
52	石井礼子	私の周囲(甥の誕生Ⅰ)	2000年	152.0×211.5	墨・麻紙	個人蔵
53	石井礼子	私の周囲(ベランダⅠ)	2001年	211.5×152.0	墨・麻紙	個人蔵
54	石井礼子	私の周囲(ベランダⅡ)	2001年	211.5×152.0	墨・麻紙	個人蔵
55	石井礼子	私の周囲(忙しい日Ⅰ)	2002年	211.5×153.0	墨・麻紙	個人蔵
56	石井礼子	私の周囲(忙しい日Ⅱ)	2002年	211.5×153.0	墨・麻紙	当館蔵
57	石井礼子	私の周囲(線路は続くよ)	2003年	211.5×153.0	墨・麻紙	個人蔵
58	石井礼子	私の周囲(お気に入り)	2006年	211.5×153.0	墨・麻紙	個人蔵
59	石井礼子	大きくなりたい(夢の中)	2007年	112.0×145.5	墨・麻紙	個人蔵
60	石井礼子	大きくなりたい(麺好き)	2007年	112.0×145.5	墨・麻紙	個人蔵
61	石井礼子	私の周囲(リフォームしました)	2008年	153.0×211.5	墨・麻紙	個人蔵
62	石井礼子	心のもよう・まっすぐに	2004年	60.5×72.5	墨・麻紙	個人蔵
63	石井礼子	絵本原画1『小さいお客さん』 福音館書店	2010年	21.0×20.0(作品 部分)	墨・紙	個人蔵
64	石井礼子	絵本原画2『小さいお客さん』 福音館書店	2010年	21.0×20.0(作品 部分)	墨・紙	個人蔵
65	石井礼子	絵本原画3『小さいお客さん』 福音館書店	2010年	21.0×20.0(作品 部分)	墨・紙	個人蔵
66	石井礼子	絵本原画4『小さいお客さん』 福音館書店	2010年	21.0×20.0(作品 部分)	墨・紙	個人蔵
67	石井礼子	絵本原画5『小さいお客さん』 福音館書店	2010年	21.0×20.0(作品 部分)	墨・紙	個人蔵

## ■ 6 開館 20 周年記念展 伊東深水一時代の目撃者

種 別	企画展
会 期	10月22日(土)～11月27日(日)
主 催	平塚市美術館、日本経済新聞社
助 成	芸術文化振興基金
協 賛	神奈川中央交通株式会社
開館時間	9:30-17:00(入場は-16:30)
休館日	月曜日
観覧料	一般900円、高大生500円
開催日数	32日
入場者数	19,093人
担 当	勝山滋(当館学芸員)



《指》1922年



《皇紀2602年婦女図(左)》1942年



《愚痴》1959年

### ●内容

開館 20 周年を迎え、記念すべき秋季企画展として「伊東深水展」を開催いたしました。

1898年東京深川に生まれた伊東深水は、1949年以降神奈川県鎌倉市さらに逗子市に過ごした湘南地方ゆかりの日本画家であり、近代日本画壇に多大な足跡を遺しました。歌川国芳、月岡芳年、水野年方、鏑木清方と続く歌川派浮世絵の正統をつぎ、美人画家として一世を風靡した深水は、美人画の巨匠として多く紹介されてきました。一方で深水は、浮世絵とは浮世つまりその時代を表わすもの、という強い信念から、普遍的・観念的な美人というよりも、自分の生きた時代の女性像を描き、明治から昭和戦前の着物姿の女性から、戦争中のたくましい女性や南方風俗、そして戦後は和装・洋装を問わず意思的・個性的な女性の肖像画に本領を發揮しました。このような深水描く女性像は、現代の我々にもなじみやすく、共感を呼ぶものです。また大正から昭和にかけて盛んに制作され、今また脚光を浴びる新版画にも豊かな才能を發揮しました。さらに遡って、明治末から大正初期には社会の底辺で生活する人々にも目を向けています。

そこで本展では、長らく所在不明であった出品作《海風》、女性ファッションを提示し時代をリードしたことを物語る《皇紀 2602 年婦女図》(共に 1942 年初公開)などによって、これまで顧みられてこなかった女性風俗画家としての幅広く多彩な側面、社会の労働者や貧困層を写しとった浮世絵師としての一面、さらにおおきな芸術運動となった新版画運動の取り組み、さらには風景画にも才能を發揮した新たな深水像を初期から晩年に至る 100 点の代表作・優作の展示によって、師である鏑木清方や京都を代表する上村松園という美人画家とは一味も二味も異なる作風と生き方を紹介しました。

また展覧会図録でも、出品作品図版に加え、このような深水の側面をテキスト、年譜、参考文献で浮き彫りにしました。

## ●関連事業

### ○対談

日時 10月23日(日) 14:00～15:00  
 講演タイトル 対談「父を語る」  
 講師 朝丘雪路(女優) 聞き手:草薙奈津子(当館館長)  
 場所 ミュージアムホール  
 参加者数 271人

### ○講演会

日時 11月13日(日) 14:00～15:30  
 講演タイトル 「伊東深水の芸術」  
 講師 草薙奈津子(当館館長)  
 場所 ミュージアムホール  
 参加者数 147人

### ○担当学芸員によるギャラリートーク

日時 10月29日(土)、11月12日(土)、11月26日(土) 14:00～15:00  
 場所 展示室Ⅱ  
 参加者数 計60人

### ○関連ワークショップ

講座名 和の伝統工芸 掛け軸づくりを楽しむ  
 日時 11月5日(土)・19日(土)・26日(土) 全3回連続講座 各回13:30～16:30  
 講師 清水達也氏(江戸表具伝統工芸士)、  
 長谷部雄三氏、小林喜代美氏(表装文化伝承支援協会)  
 場所 アトリエ  
 参加者数 19人

## ●出品リスト

NO	作品名	制作年	技法材質	サイズ(cm)	所蔵先
1	枇杷	1911年	紙本墨画.軸	29.1×22.0	
2	恵比寿大黒	1912年	絹本彩色.軸	113.5×41.5	
3	新聞売子	1912年	紙本彩色.軸	113.5×65.5	市立小諸高原美術館.白鳥映雪館
4	春日	1912年頃	紙本彩色.額	76.9×52.5	茨城県近代美術館
5	日本橋(鳥追い)	1912年頃	紙本淡彩.軸	108.2×29.6	
6	寒鮒釣り	大正時代初期	絹本彩色.軸	114.5×40.5	横須賀美術館
7	乳しぼる家	1916年	絹本彩色.屏風仕立て	151.0×111.0	福島県立美術館寄託
8	大島の黎明[島の黎明]	1916年	絹本彩色.軸	156.0×75.6	愛知県美術館
9	笠森お仙	1917年	絹本彩色.額	110.0×94.5	
10	折鶴	1920年	絹本彩色.額	30.2×21.7	
11	椿	1920年	紙本彩色.6曲1隻	169.0×362.0	岐阜県美術館
12	長襦袢	1921年	絹本彩色.額	101.0×49.0	

13	指	1922年	絹本彩色.軸	170.0×110.5	
14	紅蓮白蓮の雪路	1922年	絹本彩色.軸	139.2×49.3	
15	古井戸	1922年	絹本彩色.軸	109.4×35.1	
16	髪結師	1923年	絹本彩色.軸	142.0×49.5	
17	夕映	1923年	絹本彩色.額	101.0×98.5	
18	婦女潮干狩図	1929年	紙本彩色.6曲1隻	177.5×368.0	
19	浄晨	1930年	絹本彩色.額	215.0×140.0	
20	露	1931年	紙本彩色.2曲1隻	167.0×172.0	東京国立近代美術館
21	雪の宵	1931年	紙本彩色.2曲1隻	167.0×172.0	東京国立近代美術館
22	朧(春宵)	1931年	絹本彩色.額	65.0×96.0	名都美術館
23	暮方	1932年	絹本彩色.額	各175.5×117.5	
24	宵	1933年	絹本彩色.軸	79.6×99.0	埼玉県立近代美術館
25	鏡獅子	1934年	絹本彩色.額	202.5×168.0	
26	さくら(未完成作)[桜花図]	1939年	紙本.金地彩色.6曲1双	各162.5×366.0	
27	佳日	1940年	絹本彩色.額	157.5×153.0	
28	晴日	1941-42年	絹本彩色.軸	131.7×42,4	光記念館
29	皇紀二千六百二年婦女図	1942年	紙本彩色.額2面(元.2曲1 双屏風)	各170,0×168,0	株式会社大和証券グループ本社
30	海風	1942年	紙本彩色.額	256.0×164.0	
31	鏡獅子	1946年	絹本彩色.額	82.0×101.0	名都美術館
32	銀河祭り	1946年	絹本彩色.軸	169.7×84.3	東京藝術大学
33	雪もちの梅	1946年頃	絹本金地彩色.2曲1隻	168.5×172.4	
34	鏡	1947年	絹本彩色.額	169.0×110.0	岐阜県美術館
35	朝顔と少女	1948年	絹本彩色.軸	87.0×105.0	滋賀県立近代美術館
36	髪	1949年	絹本彩色.2曲1隻	166.8×166.8	
37	姉弟	1950年	絹本彩色.2曲1隻	171.6×172.8	
38	聞香	1950年	絹本彩色.額	144.0×172.5	東京国立近代美術館
39	三千歳	1950-51年	絹本彩色.軸	62.0×72.2	
40	清方先生像	1951年	絹本彩色.軸	104.0×88.5	東京国立近代美術館
41	N氏婦人像	1953年	絹本彩色.額	126.0×106.0	
42	春宵(東おどり)	1954年	紙本金地彩色.4曲1双	各174.0×261.0	株式会社ヤマタネ
43	楽屋	1954年	紙本彩色.額	75.0×52.5	
44	巷は春雨	1955年	紙本彩色.額(4面)	各61.5×165.5	
45	黒いドレス	1956年	紙本彩色.額	137.0×95.0	
46	古曲の人たち	1956年	紙本彩色.額	131.0×178.5	新橋演舞場
47	荻江寿友像	1957年	紙本彩色.額	107.3×86.0	神奈川県立近代美術館
48	踊子	1957年	紙本彩色.額	68.0×72.5	名都美術館
49	愚痴	1959年	紙本彩色.額	144.5×116.0	
50	祇王寺の秋	1960年	紙本彩色.額	153.6×111.2	横須賀美術館
51	雪の夕(雪月花3部作の雪)	1961年	紙本彩色.額	132.5×105.0	
52	月の出(雪月花3部作の月)	1962年	紙本彩色.額	132.0×105.0	
53	春の宵(雪月花3部作の花)	1962年	紙本彩色.額	132.5×104.0	
54	仕舞熊野(会期後半のみ展示)	1962年	紙本彩色.額	166.5×108.0	松岡美術館
55	娘道成寺を踊る吾妻徳穂	1965年	紙本彩色.額	180.2×97.0	独立行政法人日本芸術文化振興会(国立劇場)
56	菊を活ける勅使河原霞女史	1966年	紙本彩色.額	153.0×106.5	(財)草月会
57	江戸中万字屋遊女玉菊	1967年	紙本彩色.額	134.5×100.5	株式会社大和証券グループ本社
58	対鏡	1916年	紙.木版画.額	43.2×28.0	渡邊木版美術画舗

59	遊女	1916年	紙.木版画.額	42.4×22.2	渡邊木版美術画舗
60	明石の曙	1916年	紙.木版画.額	24.6×36.0	渡邊木版美術画舗
61	泥上船	1917年	紙.木版画.額	52.0×31.5	渡邊木版美術画舗
62	春(雲母刷り)	1917年	紙.木版画.額	49.4×24.3	渡邊木版美術画舗
63	春	1917年	紙.木版画.額	49.4×24.3	渡邊木版美術画舗
64	日照雨(1)	1917年	紙.木版画.額	42.3×28.6	渡邊木版美術画舗
65	日照雨(2)	1917年	紙.木版画.額	42.3×28.6	渡邊木版美術画舗
66	真昼	1917年	紙.木版画.額	33.0×23.2	渡邊木版美術画舗
67	近江八景の内 粟津	1917年	紙.木版画.額	20.0×29.9	渡邊木版美術画舗
68	神立前	1920年	紙.木版画.額	30.2×21.3	渡邊木版美術画舗
69	屋上の狂人	1921年	紙.木版画.額	36.2×26.7	渡邊木版美術画舗
70	伊達巻の女	1921年	紙.木版画.額	40.7×24.1	渡邊木版美術画舗
71	新美人12姿 初夏の浴	1922年	紙.木版画.額	40.8×24.5	渡邊木版美術画舗
72	新美人12姿 踊り	1923年	紙.木版画.額	40.7×24.6	渡邊木版美術画舗
73	新美人12姿 虫の音	1923年	紙.木版画.額	40.7×24.4	渡邊木版美術画舗
74	眉墨	1928年	紙.木版画.額	27.0×38.0	渡邊木版美術画舗
75	秋晴	1930年	紙.木版画.額	48.3×30.4	渡邊木版美術画舗
76	現代美人集第2輯 吹雪	1932年	紙.木版画.額	41.6×25.6	渡邊木版美術画舗
77	追羽根	1938年	紙.木版画.額	51.0×33.7	渡邊木版美術画舗
78	池上本門寺山門雪景	1940年	紙.木版画.額	44.2×31.0	渡邊木版美術画舗
79	七十年前の新橋駅	1942年	紙.木版画.額	45.1×35.6	渡邊木版美術画舗
80	南方風俗スケッチ1	1943年4月30日	紙本彩色.額		市川市
81	南方風俗スケッチ2	1943年5月23日	紙本彩色.額		市川市
82	南方風俗スケッチ3	1943年5月23日	紙本彩色.額		市川市
83	南方風俗スケッチ4	1943年5月23日	紙本彩色.額		市川市
84	南方風俗スケッチ5	1943年5月24日	紙本彩色.額		市川市
85	南方風俗スケッチ6	1943年6月10日	紙本彩色.額		市川市
86	南方風俗スケッチ7	1943年6月14日	紙本彩色.額		市川市
87	南方風俗スケッチ8	1943年6月中旬	紙本彩色.額		市川市
88	南方風俗スケッチ9	1943年6月16日	紙本彩色.額		市川市
89	南方風俗スケッチ10	1943年6月19日	紙本彩色.額		市川市
90	南方風俗スケッチ11	1943年6月19日	紙本彩色.額		市川市
91	南方風俗スケッチ12	1943年6月27日	紙本彩色.額		市川市
92	南方風俗スケッチ13	1943年6月28日	紙本彩色.額		市川市
93	南方風俗スケッチ14	1943年6月28日	紙本彩色.額		市川市
94	南方風俗スケッチ15	1943年6月28日	紙本彩色.額		市川市
95	南方風俗スケッチ16	1943年7月20日	紙本彩色.額		市川市
96	南方風俗スケッチ17	1943年7月21日	紙本彩色.額		市川市
97	南方風俗スケッチ18	1943年6-7月	紙本彩色.額		市川市
98	南方風俗スケッチ19	1943年7月22日	紙本彩色.額		市川市
99	南方風俗スケッチ20	1943年7月24日	紙本彩色.額		市川市
100	南方風俗スケッチ21	1943年7月	紙本彩色.額		市川市
資料	内掛け	1967年	1額		個人蔵

## ■ 7 アーティスト in 湘南Ⅲ 鳥海青児 新出作品紹介

種別	特集展
会期	12月2日(金)～12月25日(日)
主催	平塚市美術館
開館時間	9:30-17:00(入場は-16:30)
休館日	月曜日
観覧料	一般200円、高大生100円
開催日数	21日
入場者数	865人
担当	土方明司(当館館長代理)、安部沙耶香(当館学芸員)



《裸婦》1928年



《スペイン風景》1959年



会場風景

### ●内容

平塚市美術館開館20周年を記念し、湘南ゆかりの作家を紹介する特集展「アーティスト in 湘南Ⅲ」を開催いたしました。当館は開館以来、平塚市及び湘南地方に関わりの深い作家の作品を収集し展示することを、事業の大きな柱のひとつとしています。その第3弾として、「アーティスト in 湘南Ⅲー鳥海青児・未発表デッサン」展を開催しました。

平塚市須賀に生まれた鳥海は、岸田劉生、萬鉄五郎の感化を受け画家を目指しました。1924年、22歳のときに春陽会に入選。以後、同会を中心に発表を続け、三岸好太郎、木村莊八らと交友、実力ある新進画家として注目を集めました。1930年渡欧。約3年間の欧州および、北アフリカ、モロッコ滞在により独自の画風の萌芽をみます。帰国後は日本の風景画を油彩画で表現することに腐心し、その試みによってうまれた激しく力強い画風は多くの後進に影響を与えました。1943年に独立美術協会へ移った前後からは、東洋古美術の研究から新たな油彩画の世界を開拓します。以後、東洋的な色彩と形態を感じさせる独自の油彩画の生みだし、日本の油彩画に新たな領域を切り拓きました。戦後は洋画壇の代表的な画家のひとりとして活躍し、現在では昭和の洋画を語るうえで欠かすことのできぬ画家として美術史に位置付けられています。

当館では鳥海芸術をひろく顕彰すべく、今までにさまざまな展覧会を企画してきました。今回は代表的な油彩画に加え、近年ご遺族から寄贈された貴重なデッサンを中心に構成します。多くが未発表となるデッサンを展示することで、改めて鳥海の傑出した作品世界を展観しました。

### ○担当学芸員によるギャラリートーク

日時	12月11日(日) 13:00～13:30 / 12月17日(土) 14:00～14:30
場所	展示室 I
参加者数	計 30人

●出品リスト

NO	作品名	制作年	技法材質	サイズ(cm)	新出
1	水田	1936年	油彩・キャンバス	89.8×145.9	
2	神戸	1923-26年	鉛筆・紙	18.0×11.0	☆
3	神戸	1923-26年	鉛筆・紙	11.0×17.9	☆
4	神戸	1923-26年	鉛筆・紙	11.0×18.1	☆
5	芦屋風景	1926年	油彩・板	26.1×40.7	
6	北海道風景	1928年	鉛筆・紙	22.3×18.7	☆
7	北海道風景	1928年	鉛筆・紙	26.7×37.3	☆
8	裸婦	1928年	墨・紙	28.2×24.3	☆
9	裸婦	1926-30年	油彩・キャンバス	42.5×34.5	
10	裸婦	1923-44年	鉛筆・紙	21.5×14.7	☆
11	裸婦	1923-44年	鉛筆・紙	17.1×15.5	☆
12	裸婦	1923-44年	鉛筆・紙	11.0×19.0	☆
13	裸婦	1923-44年	鉛筆・紙	11.0×18.0	☆
14	裸婦	1923-44年	鉛筆・紙	25.1×21.9	☆
15	裸婦(横たわる)	1926-30年	油彩・キャンバス	38.0×48.5	
16	シベリヤ駅路	1930年	鉛筆、コンテ・紙	23.3×31.5	☆
17	シベリヤ駅路の雪	1930年	油彩・キャンバス	26.9×35.0	
18	アムステルダム	1930年	鉛筆・紙	21.0×27.0	☆
19	アムステルダム	1930年	鉛筆・紙	20.9×26.9	☆
20	ベルリン	1930年	鉛筆・紙	22.6×31.3	☆
21	ベニス	1931年	鉛筆・紙	12.4×18.4	☆
22	ベニス	1931年	鉛筆・紙	12.4×18.5	☆
23	ベニス	1933年	鉛筆、水彩・紙	20.4×28.7	☆
24	グーベルヌマン広場	1932年	油彩・キャンバス	21.2×27.2	
25	アルジェリー港	1933年	油彩・キャンバス	23.8×32.2	
26	アルジェリア アルジー市街	1931年	鉛筆、水彩・紙	17.9×23.3	☆
27	アルジェリア	1931年	鉛筆・紙	17.9×23.4	☆
28	アルジェリア	1931年	鉛筆・紙	17.9×23.0	☆
29	アルジェリ港	1930-36年	鉛筆・紙	28.5×27.9	☆
30	アルジェリア	1932年	鉛筆・紙	13.9×20.9	☆
31	アルジェリア	1932年	鉛筆・紙	23.8×30.9	☆
32	アルジェ風景	1932年	油彩・キャンバス	45.5×52.7	
33	帰国時の塩谷船長の顔	1933年	鉛筆・紙	30.9×23.8	☆
34	夜のノートル・ダーム	1932年	油彩・キャンバス	33.0×23.4	
35	風景	1944年以前	鉛筆・紙	26.9×37.0	☆
36	銚子の浜	1928年	鉛筆、パステル・紙	26.4×37.3	☆
37	石橋のある風景	1937年	油彩・キャンバス	80.5×116.8	
38	中国の風景	1939年頃	鉛筆・紙	23.0×31.4	☆
39	中国の民家	1939年	鉛筆、パステル・紙	25.0×32.6	☆
40	蘇州風景	1939年	油彩・キャンバス	80.6×116.8	
41	沖縄風景	1939年	鉛筆、パステル・紙	30.9×47.0	☆
42	沖縄風景	1940年	油彩・キャンバス	97.1×145.5	
43	北京天壇	1941年	油彩・ボード	27.2×21.0	
44	天津のフランス寺院	1942年	油彩・キャンバス	43.1×30.4	
45	アカシア	1941年	油彩・キャンバス	99.8×80.7	
46	信州の畑	制作年不詳	ボールペン・紙	15.5×19.8	☆
47	段々畑	1952年	油彩・キャンバス	80.2×65.2	
48	ぼたん	1946年	油彩・キャンバス	52.8×45.8	
49	瓶子	1950年代後半	鉛筆、パステル・紙	29.7×22.9	☆
50	伊賀瓶子とメロン	1957年	油彩・合板	72.8×60.2	

51	麻布飯倉の家	1952年以降	サインペン・紙	24.9×34.7	☆
52	狸穴の森	1954年	油彩・キャンバス	53.3×46.0	
53	裸婦	1955-64年	鉛筆・紙	23.1×29.7	☆
54	黄色い人	1956年	油彩・キャンバス	60.8×72.9	
55	シルクの馬(サーカスの馬)	1954年	油彩・キャンバス	79.7×65.0	
56	大理石をかつぐイタリア人(大理石をはこぶ男)	1958年	油彩・キャンバス	41.3×32.0	
57	ブラインドをおろす	1959年	油彩・キャンバス	53.0×45.6	
58	ブラインドをおろす	1959年頃	油彩・キャンバス	45.5×33.4	
59	静物	1948年	インクペン・トレーシングペーパー	18.1×25.0	☆
60	マカオ風景	1956年	鉛筆・着彩・紙	20.6×29.5	☆
61	マカオ	1957年	鉛筆・コンテ・紙	32.6×24.9	☆
62	アッジ	1957年	鉛筆・紙	26.2×18.7	☆
63	闘牛	1957-58年	鉛筆・紙	17.4×25.0	☆
64	ピカドール	1958年	油彩・キャンバス	91.2×61.0	
65	スペイン風景	1959年	油彩・キャンバス	32.2×41.2	
66	エルサレム	1960年	鉛筆・紙	17.6×25.0	☆
67	エローラ	1960年	鉛筆・パステル・紙	29.5×20.8	☆
68	エローラ10窟の石彫	1960年	鉛筆・紙	24.9×17.6	☆
69	壁の修理	1959年	油彩・キャンバス	72.5×100.2	
70	壁の修理	1959年	油彩・キャンバス	72.7×99.9	
71	メキシコの西瓜(メキシコ風の西瓜)	1961年	油彩・キャンバス	61.2×72.6	
72	メキシコ人	1960年頃	鉛筆・紙	35.3×24.8	☆
73	メキシコ人の顔	1960年	鉛筆・紙	24.8×19.6	☆
74	果汁を吸うマヤ人	1964年	油彩・キャンバス	72.8×50.2	
75	木心の出た法隆寺塑像	1967年	油彩・キャンバス	99.7×80.6	
76	フラメンコ	1972年	油彩・キャンバス	45.4×38.2	
77	寒山拾得相阿彌真相	1959年頃	墨・紙	28.8×23.3	☆

### Ⅲ 教育普及

#### 平成 23 年度実施プログラム

32 プログラムを行い、総参加者数 1,244 人の参加でした。

担当：小池光理(当館学芸員)、安部沙耶香(当館学芸員)、六島芳朗(当館嘱託員)

■ 1 子育て支援プログラム 遊んでのびのび「ベビーアート」		参加者数 38 人
○日数・開催日	4/14(木), 5/12(木), 6/9(木) 連続講座	○講師：富田めぐみさん(アートで子育てアドバイザー)
○対象	親子(1才～2才3ヶ月)	○内容：赤ちゃんは美術を通して家では出来ない体験をし、お母さんは子どもの成長と子育てに関する悩みを解消しました。
○材料費	500 円	

■ 2 講演会「北大路魯山人の魅力」		参加者数 147 人
○日数・開催日	5/7(土)	○講師：清水真砂さん(世田谷美術館学芸部長)
○対象	—	○内容：開催した「北大路魯山人展」関連プログラム。
○材料費	無料	

■ 3 バックヤードツアー		参加者数 39 人
○日数・開催日	5/14(土)	○講師：勝山滋(当館学芸員)
○対象	中学生～一般	○内容：普段はみられない美術館の搬入口や収蔵庫を見学しました。
○材料費	無料	

■ 4 陶の造形～いろいろの器～ (北大路魯山人展関連事業)		参加者数 17 人
○日数・開催日	5/21(土), 6/4(土), 6/11(土) 連続講座	○講師：塩田亜希子さん(陶芸家)
○対象	中学生～一般	○内容：陶芸の基礎を学び、9種の釉薬で絵付けを楽しみました。最終日には「北大路魯山人展」を見学しました。
○材料費	1000 円	

■ 5 消しゴムはんこ！つくるたのしみ おすたのしみ		参加者数 23 人
○日数・開催日	6/5(日)	○講師：津久井智子さん(消しゴム作家)
○対象	中学生～一般	○内容：消しゴムハンコを作り、ビニール傘に押ししてオリジナルグッズを作りました。
○材料費	1500 円	

■ 6 江戸の伝統紙細工～七夕の紋切り遊び～		参加者数 12 人
○日数・開催日	6/25(水), 7/2(土), 7/3(日) 連続講座	○講師：下中菜穂さん(紋切り作家)
○対象	中学生～一般	○内容：伝統紙細工「紋切り」で和紙を切り抜き文様を作り、障子紙にはって七夕飾りを作りました。七夕祭り開催中、テーマホールに展示しました。
○材料費	1,200 円	

■ 7 子育て支援プログラム 遊んでのびのび「ベビーアート」		参加者数 59 人
○日数・開催日	7/10(日)・8/6(土)・9/4(日) 連続講座	○講師：富田めぐみさん(アートで子育てアドバイザー)
○対象	親子(1才～2才3ヶ月)	○内容：赤ちゃんは美術を通して家では出来ない体験をし、お母さんは子どもの成長と子育てに関する悩みを解消しました。
○材料費	500 円	

<b>■8 アートセラピー 心のお絵かきシリーズ② 親子でパステル・アート</b>		<b>参加者数 20 人</b>
○日数・開催日	7/16(土)	○講師：福山恵美子さん(アートセラピスト)
○対象	親子(小中学生)	○内容：心のままに塗ることで「心が元気になる感じ！」をひきだしました。
○材料費	200 円	

<b>■9 シャガールの夢を描こう(「花ひらくエコール・ド・パリ」関連事業)</b>		<b>参加者数 15 人</b>
○日数・開催日	7/21(土)	○講師：岩田晶子さん(子ども美術教室講師)
○対象	小学生	○内容：シャガールの絵をインスピレーション源にした表現教室。自分たちの人型をとって、大きな作品に仕上げました。
○材料費	200 円	

<b>■10 アーティストトーク (「アーティスト in 湘南 I」関連事業)</b>		<b>参加者数 28 人</b>
○日数・開催日	7/24(日)	○講師：斉藤典彦さん(日本画家)
○対象	—	○内容：特集展会場で、展示作品について語りました。
○材料費	無料	

<b>■11 講演会「花ひらくエコール・ド・パリ」</b>		<b>参加者数 60 人</b>
○日数・開催日	7/30(土)	○講師：佐藤幸宏さん(北海道立近代美術館学芸第一課長)
○対象	—	○内容：開催した「花ひらくエコール・ド・パリ展」関連プログラム。
○材料費	無料	

<b>■12 子育て支援プログラム「保育士による つくって遊ぼう わくわくランド」</b>		<b>参加者数 99 人</b>
○日数・開催日	7/30(土)	○講師：平塚市保育士の方々
○対象	6 才までの未就学児	○内容：保育士の指導でペットボトルの風鈴、ストロートンボ、レイ(首飾り)などおもちゃの制作をしました。
○材料費	無料	

<b>■13 中学生ボランティア養成講座～缶バッジを作ろう～</b>		<b>参加者数 9 人</b>
○日数・開催日	8/10(水)	○講師：六島芳朗(当館職員)
○対象	中学生	○内容：中学生ボランティア・スタッフ向けのプログラム。N016 のプログラムに向けての養成講座。
○材料費	無料	

<b>■14 中学生ボランティアによるワークショップ～缶バッジを作ろう～</b>		<b>参加者数 106 人</b>
○日数・開催日	8/12 日(金)・13(土)・14(土)	○講師：六島芳朗(当館職員)中学生ボランティア(6 人)
○対象	3 才～一般	○内容：中学生ボランティアによる、美術館のチラシや雑誌を切り抜いて、オリジナル缶バッジ制作。実施時間内、随時参加可能。
○材料費	50 円	

<b>■15 中学生対象 アート・サマー・セミナー</b>		<b>参加者数 15 人</b>
○日数・開催日	8/18(木)	○講師：江口恒明(当館学芸員)
○対象	中学生	○内容：「エコール・ド・パリ」展関連プログラム。美術に興味のある中学生を対象としたレクチャーを行いました。
○参加費	無料	

<b>■16 小中学校教員向け「版面体験講座～大型プレス機にチャレンジ～」</b>		<b>参加者数 13 人</b>
○日数・開催日	8/19(金)	○講師：城戸宏さん(版画工房主宰)
○対象	小中学校教諭	○内容：小中学校に備品としてある大型プレス機活用方法のレクチャーを行いました。
○材料費	500 円	

■17 のんびりお絵かき のびのび時間～夏休み美術表現教室～		参加者数 36人
○日数・開催日	8/20(土) 午前・午後2回開催	○講師：山中マンボウさん(アーティスト)
○対象	小中学生	○内容：好きな画材で、自由に表現することの楽しさを体験しました。
○材料費	200円	

■18 アーティストトーク (「アーティスト in 湘南 I」関連事業)		参加者数 70人
○日数・開催日	8/20(土)	○講師：山本直彰さん(日本画家)
○対象	一般	○内容：特集展会場で、出品作家が展示作品について語りました。
○材料費	無料	

■19 夏休み日本画体験!! (「アーティスト in 湘南 I」関連事業)		参加者数 19人
○日数・開催日	8/21(日)	○講師：山本直彰さん(日本画家)
○対象	小学5年生～高校生	○内容：出品作家による日本画技法講座。作家の作品イカロスのイメージをもとに表現しました。
○材料費	800円	

■20 みんなの光るどろだんご講座		参加者数 36人
○日数・開催日	8/24(水) 午前・午後2回開催	○講師：岩月真由子さん(土の美術家)
○対象	小中学生	○内容：左官の技法「千石磨き」を使って光るどろだんごを制作。
○材料費	1,000円	

■21 スティックのりでかんたん染色 お絵かきフロシキ作り		参加者数 11人
○日数・開催日	8/27(土)	○講師：岩田晶子さん(子ども美術教室講師)
○対象	小学生	○内容：大きな布にのりをぬって絵の具で染めて風呂敷を作りました。
○材料費	500円	

■22 子育て支援プログラム「元気にのびのびキッズ・アート」		参加者数 48人
○日数・開催日	10/13(木)、11/10(木)、12/8(木) 連続講座	○講師：富田めぐみさん(アートで子育てアドバイザー)
○対象	親子(2才6ヶ月～4才までの未就園児)	○内容：美術を通して家では出来ない体験をし、お母さんは子どもの成長と子育てに関する悩みを解消しました。
○材料費	500円	

■23 動きとリズムを描く～舞踏する人のムービング・デッサン～ (「アーティスト in 湘南 II」関連事業)		参加者数 21人
○日数・開催日	10/15(土)	○講師：内田あぐりさん(日本画家) ムービング・モデル：大竹宥熙さん(舞踏家)
○対象	10才(小学4年生)～一般	○内容：、展示室内の大型作品の前でモデルのパフォーマンスを見学し、アトリエでモデルの動きを追ってのデッサンに挑戦しました。
○材料費	500円	

■24 銅版画講座 ① エッチングで作るオリジナル・カード		参加者数 9人
○日数・開催日	10/16(日)	○講師：城戸宏さん(版画工房主宰)
○対象	中学生～一般	○内容：当館のプレス機を使用して銅版画の腐食技法の一つ「エッチング」を学びました。
○材料費	800円	

<b>■25 アートセラピー 心のお絵かきシリーズ② 親子でパステルアート いろいろな色と遊ぼう</b>		<b>参加者数 18人</b>
○日数・開催日	10/2(土)	○講師：福山恵美子さん(アートセラピスト)
○対象	親子(小中学生)	○内容：コラージュによるアートセラピー講座。
○材料費	一人につき 200 円	

<b>■26 銅版画講座 ② タイルグラフでつくるオリジナル・カード</b>		<b>参加者数 11人</b>
○日数・開催日	10/30(日)	○講師：城戸宏さん(版画工房主宰)
○対象	中学生～一般	○内容：当館のプレス機を使用して、タイルグラフを使った版画の技法を学びました。
○材料費	500 円	

<b>■27 バックヤードツアー②</b>		<b>参加者数 42人</b>
○日数・開催日	11/3(木)	○講師：江口恒明(当館学芸員)
○対象	中学生～一般	○内容：普段はみられない美術館の搬入口や収蔵庫を見学しました。
○材料費	無料	

<b>■28 和の伝統工芸 掛け軸づくりを楽しむ (「伊東深水展」関連事業)</b>		<b>参加者数 19人</b>
○日数・開催日	11/5(土)・19(土)・26(土) 連続講座	○講師：清水達也さん(江戸表具伝統工芸士)、 長谷部雄三さん 小林喜代美さん(表装文化研究会)
○対象	高校生～一般	○内容：日本の絵画や書を飾る際に施された表装について、絵はがき用のミニサイズの表装を制作し、その伝統技法を学びました。
○材料費	2000 円	

<b>■29 美術館ポスターが大変身！ エコ・スタイリッシュな封筒作り</b>		<b>参加者数 22人</b>
○日数・開催日	11/6(日)	○講師：上田尚矢さん(アーティスト)
○対象	中学生～一般	○内容：美術館ポスターは、役目を終えたら廃棄されます。このポスターを再利用して、デザインの素敵な封筒を作りました。
○参加費	500 円	

<b>■30 平塚の土でつくる！光るどろだんご講座</b>		<b>参加者数 27人</b>
○日数・開催日	11/13(日) 午前・午後 2 回開催	○講師：岩月真由子 氏(土の美術家)
○対象	小中学生	○内容：左官の技法「千石磨き」を使って光るどろだんごを制作。
○材料費	1000 円	

<b>■31 津久井智子の消しゴムはんこ。つくるたのしみ おすたのしみ</b>		<b>参加者数 41人</b>
○日数・開催日	11/23(水祝) 午前・午後 2 回開催	○講師：津久井智子さん(消しゴムはんこ職人)
○対象	小中学生	○内容：消しゴムハンコでオリジナルグッズを作りました。
○材料費	1500 円	

<b>■32 アートフェスタ 公開体験プログラム「アートの花を咲かせましょう」</b>		<b>参加者数 114人</b>
○日数・開催日	12/10(土)、11日(日)	○講師：美術館学芸員
○対象	幼稚園～一般	○内容：新感覚絵の具アートリペルを使っての造形表現をしました。
○材料費	無料	

## IV その他の事業

### (1) 事業

#### ●第34回 平塚市展 6月26日(日)~7月10日(日)

主催	平塚市展委員会
協力	平塚書道協会・湘南美術工芸研究会・平塚美術家協会・平塚写真連盟・平塚市教育委員会
後援	平塚市・平塚市文化連盟・SCN湘南ケーブルネットワーク・FM湘南ナパサ・平塚商工会議所 平塚市文化スポーツまちづくり振興財団
場所	展示室I、市民アートギャラリー
日数	13日
参加者数	5,600人

#### ●七夕飾り 7月5日(火)~10日(日)

主催	平塚市美術館
内容	平塚の七夕祭りにあわせて、ワークショップ「江戸の伝統紙細工〜七夕の紋切り遊び」で制作した七夕飾りを展示しました。また特別展示として、東北大震災で被害を受けた南三陸町に伝わる切り紙を紹介し、参加者の方々が作った切り紙を貼り出しました。3日の午後からワークショップ講師、参加者の方々により飾りつけられ、来館者の目を楽しませていました。 ※展示指導 下中菜穂氏(ワークショップ講師、紋切り作家)
場所	テーマホール
日数	5日
参加者数	自由観覧



実施風景

#### ●ミュージアムコンサート 10月2日(日)

主催	平塚市美術館
出演	志摩かなえ(第一ヴァイオリン)・森口真智子(第二ヴァイオリン)・渡邊智生(ヴィオラ) 渡邊弾楽(チェロ)
曲目	チャイコフスキー：弦楽器四重奏曲第1番ニ長調より/となりのトトロほか
内容	湘南出身の演奏家を中心とするユニット「PORTE BLUE(ポルトブルー)」による、歌うように奏でられる音楽をうらかな秋の日にお楽しみいただきました。
場所	テーマホール
参加者数	190人

12月11日(日)

主催	平塚市美術館
出演	渡辺雅二(ピアノ)・渡辺舞(フルート)
曲目	サウンドオブミュージック/星に願いを/ジブリメドレーほか
内容	ヒーリング音楽の第一線で活躍するピアニスト渡辺雅二氏による、絵画のようなメロディと評される演奏をクリスマスシーズンの日曜日の午後にお楽しみいただきました。
場所	テーマホール
参加者数	190人



実施風景

●舞踏公演 ワークショップ「舞踏する人のムービング・デッサン」関連 10月15日(土)

主催	平塚市美術館
内容	ワークショップ「舞踏する人のムービング・デッサン」プログラムの一環として、「アーティスト in 湘南Ⅱ」の展示室内で舞踏公演を行い、当日の展覧会鑑賞者も見学をしました。大竹氏は、出品作家・内田あぐり氏のモデルを三十年来つとめ、作品の多大なインスピレーション源となってきました。作品の前で踊る舞踏家の、肉体を駆使した迫力ある表現を、ご鑑賞いただきました。
出演	大竹宥熙(おおたけゆうき 舞踏家) ※解説：内田あぐり(日本画家)
場所	展示室 I
日数	1日
参加者数	60人



実施風景

●アートフェスタ 12月10日(土)～11日(日)

主催	平塚市美術館
内容	1) 美術館のワークショップ実施風景の紹介写真パネル 26枚 2) 体験アートプログラム「アートの花を咲かせましょう」 新感覚絵の具「アートルペル」で、偶然の水のはじきを利用して、幻想的な作品を描きアトリエに展示しました。
場所	アトリエA
日数	2日
参加者数	153人



実施風景

(2) 団体向け研修・体験プログラム

No	種別	年月日	参加団体	内容	人数
1	学習	5月12日(木)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「画家たちの二十歳の原点」見学とレクチャー(松原・崇善・富士見・須賀)	31人
2	学習	5月26日(木)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「北大路魯山人展」見学とレクチャー(大神公民館)	14人
3	学習	5月31日(火)	崇善地区婦人部長会	「画家たちの二十歳の原点」見学とレクチャー	8人
4	学習	6月2日(木)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「画家たちの二十歳の原点」見学とレクチャー(大野・八幡・四之宮・中原・松ヶ丘・大原・南原)	48人
5	学習	6月3日(金)	小平市公民館サークル 美術館散歩の会	「画家たちの二十歳の原点」見学とレクチャー	22人
6	学習	7月26日(火)	伊勢原市 小学校教育研究会	「花ひらくエコール・ド・パリ展」見学とレクチャー	23人
7	学習	7月28日(木)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「花ひらくエコール・ド・パリ展」見学とレクチャー(岡崎・神田・城島)	48人
8	学習	8月17日(水)	アート21	「花ひらくエコール・ド・パリ展」見学とレクチャー	25人
9	学習	8月18日(木)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「花ひらくエコール・ド・パリ展」見学とレクチャー(崇善・富士見・須賀・松原)	36人
10	学習	8月25日(木)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「花ひらくエコール・ド・パリ展」見学とレクチャー(大野・八幡・四ノ宮・中原・松ヶ丘・大原・南原)	56人
11	学習	9月2日(金)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「花ひらくエコール・ド・パリ展」見学とレクチャー(金田・金目・吉沢・土屋・旭北・旭南)	50人
12	学習	9月2日(金)	藤沢北ロータリークラブ	「花ひらくエコール・ド・パリ展」見学とレクチャー	15人

13	学習	9月27日(火)	相武台地区 社会福祉協議会	「アーティスト in 湘南Ⅱ展」見学とレクチャー	21人
14	学習	10月12日(水)	バーデンライフ 伊勢原	「アーティスト in 湘南Ⅱ展」見学とレクチャー	13人
15	学習	10月18日(火)	茅ヶ崎寒川地区 小学校教育研究会	「アーティスト in 湘南Ⅱ展」見学とレクチャー	35人
16	学習	10月26日(水)	平塚市工業懇話会	「伊東深水展」見学とレクチャー	27人
17	学習	10月29日(土)	三田観世会	「伊東深水展」見学とレクチャー	20人
18	学習	11月6日(日)	藤沢地区 経営懇話会	「伊東深水展」見学とレクチャー	8人
19	学習	11月9日(水)	掛川市 二の丸美術館友の会	「伊東深水展」見学とレクチャー	54人
20	学習	11月10日(木)	クラブツーリズム	「伊東深水展」見学とレクチャー	18人
21	学習	11月11日(金)	三島市教育委員会	「伊東深水展」見学とレクチャー	18人
22	学習	11月17日(木)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「伊藤深水展」見学とレクチャー(神田公民館)	27人
23	学習	11月17日(木)	まさご会	「伊東深水展」見学とレクチャー	15人
24	学習	11月17日(木)	大磯ロータリークラブ	「伊東深水展」見学とレクチャー	20人
25	学習	11月18日(金)	慶応三田会	「伊東深水展」見学とレクチャー	30人
26	学習	11月19日(土)	江東区 森下文化センター	「伊東深水展」見学とレクチャー	13人
27	学習	11月24日(木)	公民館自主事業 美術鑑賞講座	「伊東深水展」見学とレクチャー(大神公民館)	9人
28	学習	12月8日(木)	花巻市職員他	「アーティスト in 湘南Ⅲ展」見学とレクチャー	4人
<b>計</b>					<b>708人</b>

### (3) 職場体験受け入れ

市内の中学生、高校生が現場で仕事を実際に体験することによって、社会性・勤労観やマナーを身につけ、将来の職業選択につながるよう、職場体験の受け入れを行っています。

No	年月日	参加者	人数	内容
1	7月14日	大磯高等学校1年生	20名(男14、女6)	館の概要講義及び施設見学
2	8月3日	二宮中学校2年生	2名(女2)	館の概要講義及び業務体験
3	10月6日	大野中学校2年生	3名(男2、女1)	館の概要講義及び業務体験
				参加者 計25人

## (4) 定例会議

### ●美術館協議会

○委員(敬称略) 8名

水沢勉(学識経験者)、河野孝博(学識経験者)、加藤ゆみえ(学識経験者)、望月正大(学校教育関係者)、栗木雄剛(学校教育関係者)、大橋千賀子(学校教育関係者)、平野恵美子(社会教育関係者)、今関健司(社会教育関係者)

○開催日/議題

第1回 平成23年8月23日(火) 平成23年度事業計画及び今までの事業結果について

第2回 平成24年3月21日(水) 平成23年度下半期事業報告、平成24年度事業計画(案)について

### ●美術品選定評価委員会

○12月19日(月) 開催

○委員(敬称略) 5名

酒井忠康(学識経験者)、水沢勉(学識経験者)、荒屋鋪透(学識経験者)、加藤弘子(学識経験者)、猿渡紀代子(学識経験者)

○寄贈27点・寄託32点の選定と評価  
購入予定1点

## (5) 平塚市美術館 湘南フレンズ倶楽部の発足

従来、組織していた「平塚市美術館友の会」を2011年3月31日に解散し、新たに美術館の事業を外側からサポートする「平塚市美術館湘南フレンズ倶楽部」を7月6日に設立し11月9日に第1回総会を開きました。会員数は2012年3月31日現在、一般会員110人・特別会員28人・法人会員12社・特別法人2社となっております。

○活動内容

- ・総会の開催・学芸員によるギャラリートーク・ボランティア支援活動
- ・会報の発行・美術館ツアーや美術講演会

## (6) その他

開館20周年記念事業

○7月20日(水)と8月20日(土)を無料招待の日としました。

○5月15日に展覧会観覧170万人目の方に記念品をプレゼントしました。

○開館からの展覧会ポスターで20年を振り返りました。

## V 施設利用者等の統計

### (1) 展覧会

#### ●入場者数 月別統計

月	開館日数	企画展	特集展	合計
4月	26日	2,460人	2,059人	4,519人
5月	26日	8,572人	9,324人	17,896人
6月	26日	5,837人	6,535人	12,372人
7月	27日	2,747人	1,671人	4,418人
8月	26日	7,541人	6,515人	14,056人
9月	26日	1,245人	1,914人	3,159人
10月	26日	3,478人	3,279人	12,048人
11月	26日	15,615人	10,472人	20,796人
12月	22日	—	865人	865人
1月	空調工事のため休館			
2月				
3月				
計	231日	47,495人	42,634人	90,129人

#### ●学校観覧

		企画展			特集展		
		学校数	生徒数	教員数	学校数	生徒数	教員数
小学校	市内	2校	3人	3人	5校	138人	14人
	市外	10校	661人	38人	15校	886人	54人
中学校	市内	10校	137人	17人	14校	158人	25人
	市外	7校	98人	9人	7校	98人	9人
高等学校		1校	3人	1人	4校	26人	13人
計		30校	902人	68人	45校	1,306人	115人

### (2) 貸出施設

#### ●市民アートギャラリー 月別統計

月	利用日数	団体数	入場者数
4月	18日	5団体	3,390人
5月	30日	9団体	8,145人
6月	34日	5団体	6,280人
7月	18日	4団体	3,626人
8月	30日	7団体	5,619人
9月	24日	6団体	4,457人
10月	24日	4団体	4,448人
11月	29日	6団体	13,470人
12月	18日	4団体	3,183人
1月	空調工事のため休館		
2月			
3月			
計	225日	50団体	52,618人

●ミュージアムホール 月別統計

月	利用日数	団体数	入場者数
4月	3日	3団体	238人
5月	—	—	—
6月	8日	8団体	504人
7月	6日	6団体	550人
8月	—	—	—
9月	1日	1団体	20人
10月	4日	4団体	217人
11月	—	—	—
12月	6日	9団体	574人
1月	空調工事のため休館		
2月			
3月			
計	28日	31団体	2,103人

5月・8月・11月については、企画展DVD上映のため利用団体はありません。

●アトリエ 月別統計

月	利用日数	団体数	入場者数
4月	2日	2団体	9人
5月	1日	1団体	5人
6月	2日	2団体	26人
7月	1日	1団体	3人
8月	0日	0団体	0人
9月	0日	0団体	0人
10月	1日	1団体	50人
11月	0日	0団体	0人
12月	0日	0団体	0人
1月	空調工事のため休館		
2月			
3月			
計	7日	7団体	93人

## VI 施設の管理

### (1) 防災訓練

実施日時：6月8日(水)／9:00～9:30

想定：美術館1階の「市民アートギャラリー厨房」で火災発生、施設利用者20人が来館中と想定。

内容：通報・消火(水消火器を使用)・避難誘導訓練、各自の役割・展示室からの避難経路の確認。

### (2) 蓄熱槽補修工事

予定日時：12月26日(月)～3月末

内容：美術館蓄熱槽温水槽内部の補修工事を行いました。このため、1月～3月末まで休館。

### (3) 施設の貸出について

#### ●ミュージアムホール

○講演会、演奏会、映写会、会議等の開催について利用可能(床面積は262㎡、座席数最大150席程度)。

○利用希望者の申込みは一団体(個人)1件とする。

#### 申込手続

○美術館施設利用申込書の提出→審査・許可→使用料納入→美術館施設利用承認書の交付

○受付は利用日の6ヶ月前の日から利用開始7日前まで。受付時間は9:30～17:00。

○ピアノ・マイク等、その他設備の有料貸出しあり。

#### 利用日時

○美術館事業で使用していない開館日に限る。

○利用は半日単位で連続2日間まで。利用時間は、午前が9:30～12:30、午後が13:00～16:50、全日利用が9:30～16:50。

#### 使用料

利用時間帯	平塚市民・団体	平塚市外
午前 9:30～12:30	2,000円	3,000円
午後 13:00～16:50	3,000円	4,500円
全日 9:30～16:50	5,000円	7,500円

※平塚市が協賛または後援する行事の場合の使用料は上記額の半額。

#### ●市民アートギャラリー

○絵画、彫刻、工芸、書、写真等の美術に関する展示希望者への貸出しが可能。希望者多数の場合は抽選。

○施設規模は、天井高が3.5m、床面積はA室が215㎡、B室が149㎡、AB全室利用が365㎡、標準壁面長がA室で68m、B室が57m、AB全室利用で120m。

○利用希望者の申込みは一団体(個人)1件とする。申込み手続きは、受付期間に以下の順序で行っている。

#### 申込手続

○展覧会計画書(館所定の用紙)の提出→審査→抽選・調整→美術館施設利用申込書の提出→使用料の納入→美術館施設利用承認書の交付

## 受付期間

○10月から3月の間に利用希望の場合：4月1日～10日 受付時間9:30～17:00

空室があった場合のみ、5月1日以降、利用開始7日前まで申込みが可能。

○4月から9月の間に利用希望の場合：10月1日～10日 受付時間9:30～17:00

空室があった場合のみ、11月1日以降、利用開始7日前まで申込みが可能。

## 利用期間と日時

○1日単位で最大1週間(6日間以内=火曜日から日曜日)まで利用可能。時間は9:30～16:50まで。

美術館休館日(月曜定休)は利用不可。

## 使用料

利用場所	平塚市民・団体	平塚市外
全室	10,000円	15,000円
A室	6,000円	9,000円
B室	4,000円	6,000円

※平塚市が協賛または後援する行事の場合の使用料は上記額の半額。

## ●アトリエA室・B室

○絵画・彫刻・工芸等の制作希望者への貸出しが可能(床面積はA室157㎡、B室111㎡)。

○利用希望者の申込みは一団体(個人)1件とする。

### 利用日時

○美術館事業で使用していない開館日に限る。※利用可能日については要問い合わせ

○利用は半日単位で6日間まで 午前利用が9:30～12:30/午後利用が13:00～16:50/全日利用が9:30～16:50

○美術館施設利用申込書の提出→審査・許可→使用料納入→美術館施設利用承認書の交付

○受付は利用日2ヶ月前から利用開始7日前まで、受付時間は9:30～17:00。

## ●使用料

利用場所	利用時間帯	平塚市民・団体	平塚市外
アトリエA	午前 9:30～12:30	1,500円	2,250円
	午後 13:00～16:50	1,500円	2,250円
	全日 9:30～16:50	2,500円	3,750円
アトリエB	午前 9:30～12:30	700円	1,050円
	午後 13:00～16:50	1,100円	1,650円
	全日 9:30～16:50	1,800円	2,700円

※平塚市が協賛または後援する行事の場合の使用料は上記額の半額。

## VII 沿革

### 1971年(S46)

11月 フクスケ画廊2周年記念パーティに集った作家たちより「平塚市へ美術館建設の要望をすること」の申請なされる。加藤一太郎市長、平野博収入役より「一作家一点寄贈運動」の提案。

### 1977年(S52)

3月 新設された平塚市博物館で「平塚市所蔵美術展」の開催、あわせて『平塚市所蔵美術品目録』の発行。  
9月 企画展「鳥海青児と昭和の画家たち展 神奈川芸術祭」(神奈川県立近代美術館共催)、会場は平塚市博物館。

### 1982年(S57)

5月 社会教育委員会議議長名で「平塚市美術館建設について」の建議が教育長宛になされる。

### 1984年(S59)

4月 石川京一市長が美術館建設を公約として、市長選2期目に再選される。  
5月 「美術館建設研究委員会」発足(庁内組織 委員長:山本桂一郎 教育委員会指導部)。  
9月 平塚美術協会が「平塚市美術館早期促進建設の為の陳情書」を市に提出。

### 1985年(S60)

7月 「平塚市美術館建設基本構想策定委員会」設置(～1986年まで全8回開催)。  
※構成委員は次の通り。落合良延、陰里鉄郎、匠秀夫、田中穰、原田実、平野博、升水滋、水島英耀、湯井勝(敬称略)。

### 1986年(S61)

3月 「平塚市美術館建設基本構想策定」答申。湘南の中心に位置する美術館としてメインテーマを「湘南の美術・光」とする。  
4月 「美術館建設基本計画策定連絡協議会」の設置(庁内組織)。  
「第1回平塚市美術品選定評価委員会」の開催(於 平塚市博物館)。  
9月 「平塚市美術館新築設計技術提案審査会」発足。プロポーザル予備審査会、本審査会を開催、9社の提案を審査。

### 1988年(S63)

1月 大蔵省との美術館建設用地払い下げ契約完了。(㈱日建設と委託契約)。  
4月 「平塚市教育委員会指導部美術館建設準備室」として博物館から独立、設置。

### 1989年(H元)

3月 「仮称平塚市美術館建築工事(本体工事費)」の議決なされる。  
7月14日 「平塚市美術館建設起工」。仮称平塚市美術館新築工事安全祈願祭に石川市長ほか関係者約70名が出席。

### 1990年(H2)

10月 「平塚市美術館本体工事」竣工。  
12月 「平塚市美術館条例」公布。

### 1991年(H3) 平塚市美術館開館

3月 美術館のシンボル彫刻《コンストラクション#115》ホセ・デ・リヴェラ作の搬入設置。  
3月25日 平塚市美術館開館(初代館長に原田実が就任)、記念式典の開催。26日より一般公開。  
開館記念展「スイス プチパレ美術館名品展—タルコフとエコール・ド・パリの画家たち—」～5月5日まで。  
5月18日～6月16日 開館記念展「湘南の萬鉄五郎」  
7月 「平塚市展」はこの第14回展以降毎年、平塚市美術館展示室と市民アートギャラリーで開催。

### 1992年(H4)

3月20日～4月19日 「市制60周年記念 相模の禅僧 風外慧薫作品展 平塚市博物館所蔵・高瀬コレクション」  
7月 第15回平塚市展から「美術館賞」の設定、審査は館長が行う。  
11月14日～12月13日 「市制60周年記念 田中真洲回顧展」開催。

### 1993年(H5)

7月 博物館実習生の受け入れを開始。

### 1994年(H6)

3月 教育普及活動関連冊子ワークショップオリジナルブック 「読むワークショップ」の刊行開始(年2冊～1999年)。

## 1995年(H7)

4月 教育普及活動において、市民参加型長期プログラム「ワークショップクラブ」発足。

## 1996年(H8)

11月9日～12月22日 開館5周年記念展「ミレーとバルビゾン派の画家たち」開催。

10月 美術館内における総合的な地震対策の開始：彫刻転倒防止措置、スポットライト落下防止措置等。

## 1997年(H9)

4月 2代目館長に福田徳樹（フクダトシキ）就任。

## 1999年(H11)

5月 常設展示を発展させた、所蔵品による「特集展示」の企画開始。

## 2000年(H12)

10月14日～22日 平塚市神奈川大学交流提携10周年記念「開港期の神奈川・世界が見た日本」展開催。

## 2001年(H13)

7月26日～9月30日 開館10周年記念展「湘南の美術・光—美術館建設運動から開館10周年まで」開催。

## 2002年(H14)

2月9日～3月24日 開館10周年記念展「日本画の巨匠 安田靉彦—歴史画の魅力」開催。

4月 「平塚市美術館友の会」発足。

11月2日～12月23日 市制70周年記念「原精一 人間表現の魅力」展開催。

## 2003年(H15)

2月2日～3月30日 平塚市・神奈川大学交流事業 地域コレクションシリーズⅢ「神奈川大学図書館所蔵 パリ・コミュニケーションの風刺画 —1871年ペンと大砲の市民革命」展開催。

## 2004年(H16)

4月 3代目館長に、草薙奈津子（クサギナツコ）就任。

## 2005年(H17)

7月23日～9月11日 「生誕100年記念 三岸節子展」

## 2006年(H18)

1月～3月 展示室可動壁のクロス張替え作業のため休室。

9月20日 皇后美智子さまがご来館。

「世界の絵本がやってきた ブラティスラヴァ世界絵本原画展」をご鑑賞されました。

10月14日～11月26日 開館15周年記念展「日本画の巨匠 山本丘人展」開催。

## 2007年(H19)

4月14日～5月27日 「三沢厚彦アニマルズ+PLUS」展開催。

9月15日～11月4日 「絵で読む宮沢賢治展—賢治と絵本原画の世界」展開催。

## 2008年(H20)

2月2日～3月23日 河野通勢展 ※美術館連絡協議会の2008年度「美連協大賞」を受賞。

11月7日 妃殿下秋篠宮紀子さまがご来館。

「近代日本画の巨匠 速水御舟—新たなる魅力」展をご鑑賞されました。

## 2009年(H21)

7月11日～9月6日 「山本直彰展 帰還する風景」。

7月18日～8月30日 「わたしがえらんだいわさきちひろ展」39,844人の観覧者を記録し歴代入場者数1位となる。

## 2010年(H22)

4月17日～6月13日 「平明・静謐・孤高—長谷川湊二郎展」

## 2011年(H23)

3月11日 東日本大震災発生。美術館に被害なし。電力不足を考慮し、臨時休館を実施。

4月16日～6月12日 開館20周年記念展「画家たちの 二十歳の原点」

6月 事務室のLED化実施

7月 湘南フレンズ倶楽部発足

7月16日～9月4日 開館20周年記念展「花ひらくエコール・ド・パリの画家たち」

10月22日～11月27日 開館20周年記念展「伊東深水—時代の目撃者」

## 2012年(H24)

1月～3月 空調工事のため休館

3月 展示室・研修室の・アトリエのLED化実施

## 平成 23 年度 平塚市美術館年報

発行年月：2012 年 7 月

編集・発行：平塚市美術館

〒254-0073 神奈川県平塚市西八幡 1-3-3

電話 0463-35-2111

<http://www.city.hiratsuska.kanagawa.jp/art-muse/>

